

■橋梁補修（措置）の新技術

※R6. 1.0. 1時点

○本掲載情報は橋梁の「点検・措置（新工法・新材料）」における新技術について、「点検支援技術性能カタログ」及び「NETISの有用技術（名称付与技術）」をまとめたものである。  
措置に関する技術・・・335技術

○表中の注意事項※1～※4

※1「性能カタログ」の位置付けはホームページ記載の「～補足～」のとおり。  
※2「NETIS（有用な新技術）」の位置付けはホームページ記載の「～補足～」のとおり。  
※3「従来技術」とはNETIS申請者が「国土交通省土木工事標準積算基準」「港湾土木請負工事積算基準」等に記載されている工法から選択しているものであり、表中の他技術との比較ではないことに注意。  
（比較対象技術の詳細はNETISを参照のこと。）  
※4「活用効果調査件数」とはNETISにおいて活用効果調査票が提出された件数であり、当該技術の総実績件数ではないことに注意。

○当該掲載情報は新技術選定の効率化、選定候補漏れ防止の一助となる様、橋梁保全に関する性能カタログ及びNETISの有用な技術を取りまとめたものであり、その他の技術利用を妨げるものではない。  
最終的な新技術の選定にあたっては各々の橋梁や現場特性を考慮の上、各道路管理者が適正に判断すること。

No.	分類項目	小分類項目	技術名称	新技術開発システム（NETIS）										性能カタログ※1							
				掲載 ※NETISサイ トに移動しま す	NETIS（有用な新技術）※2				従来技術との比較※3 （※技術開発者の申請情報）				NETISの 活用効果調査件数※4			NETIS登録番号	掲載 ※性能カタロ グページ に移動します	技術の 性能確認 シート	性能カタログ番号		
					推奨技術	準推 奨技術	評価 促進技術	活用 促進技術	経済性	工程	品質	施工性	全体	中国地整	他地整						
1	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>ShieM-CS工法 Bタイプ</b> 本技術はコンクリート構造物の劣化防止を目的とした表面被覆工法で、バリア層を有する多層構造で形成されたシートをコンクリートに貼り付けることで、中性化・塩害・はく落の防止が可能な工法である。	■						○	○	-	○	4件		4件	CG-140001-VR				
2	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>コンクリート剥落防止対策ネット工法</b> メッシュシート（スマートメッシュ）によるコンクリート片のはく落防止対策ネット工法。従来のはつり・断面修復工法に比べ、短期間で経済的に剥落防止が可能となり、施工後にはコンクリート躯体のひび割れ等の損傷状況を目視観察ができる他、容易に部分補修が図れる。	■					○ R1	○	-	-	○	29件	8件	21件	SK-140006-VE				
3	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>ボンドユニエポシリーズ</b> 本技術は、コンクリート構造物の補修・補強工事に使用する常温硬化型エポキシ樹脂を1液型にする技術で、従来は2液型エポキシ樹脂で対応していた。本技術の活用により、計量・混合作業が不要となり煩雑な作業が省略される為、施工の省力化と品質の向上が図れる。	■						○	○	○	○	4件		4件	KT-150022-VR				
4	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>NFKパネル工法</b> 繊維シート等の補強材を高強度で耐久性に優れたパネルにした成型版補強工法で、従来は、銅板接着工法で対応していた。パネルサイズが大きくなったが、軽量化により施工性や安全性が向上、工程の短縮が図れることにより経済性の向上も図れる。	■						○	○	○	○	4件		4件	KT-150025-VR				
5	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>不織布複合繊維シート貼付けコンクリート片剥落防止工法</b> 本技術は、不織布複合繊維シートをプライマー・接着剤兼用材で接着する剥落防止工法で、従来はプライマー塗布後、高粘度接着剤で連続繊維を接着する連続繊維接着工法で対応していた。本技術の活用により、工程短縮が可能となり、経済性の向上が図れる。	■						○	○	-	○	2件		2件	KT-150030-VR				
6	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>浸透性吸水防止材・コンクリート表面保護剤(含浸剤) LEOTECT(レオテクト)シリーズ</b> 本技術は、吸水性防止材を使用した表面含浸工法で、従来は有機系塗料を用いた表面被覆工法で対応していた。本技術の活用により、施工日数短縮による経済性の向上・外観を変えない事による表面損傷進行程度の確認向上・有機溶剤を使用しない事による環境改善が図れる。	■						○	○	○	○	3件		3件	KT-150042-VR				
7	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>タフガードスマートBeメッシュ工法</b> 本技術は、コンクリート構造物のはく落を防止する工法で、従来はガラス繊維シートによるはく落防止工法で対応していた。本技術の活用により、変形追随性やひび割れ含浸性が向上するため、はく落防止性や耐久性の向上が図れる。	■						○	○	○	○	2件		2件	KT-150051-VR				
8	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>コンクリート剥落防止塗装 ペイントガードCV</b> アクリルエマルジョンにビニロン繊維及び特殊繊維を配合した塗料を塗布する方式のコンクリート片剥落防止対策工法。従来は剥落防止工(アラミドメッシュ)で対応していた。本技術の活用により、接着工程の削減が可能で、施工性や経済性の向上が図れる。	■						○	○	-	○	2件	1件	1件	KT-150090-VR				
9	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強 〈増厚〉	<b>ニッシンボンド</b> コンクリート打ち継ぎ時に使用する接着剤。従来は、接着剤の多くが毒物・劇物指定であったが、本技術は毒物劇物フリーとした。本技術の活用により、作業環境の向上、周辺環境への影響抑制が図られ、安全性及び品質の向上が期待できる。	■						-	-	○	○	10件	1件	9件	KT-150114-VR				
10	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>コンクリート劣化防止工法 ファインクリスタルS&amp;TOP</b> 本技術は、①コンクリート表面に浸透性常温安定ガラス生成剤を含浸させ、空気を充填し、表層部を緻密化。②UVカットポリシロキサン撥水剤により撥水層を形成。③この2つの浸透系改質剤により、新設、既設を問わず、長期にわたり劣化因子の侵入を抑制、表層部を緻密化する。	■					△	-	○	○	1件		1件	CB-150008-VR					
11	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>けい酸塩系コンクリート含浸材「SUPER SHIELD」</b> けい酸塩系ナトリウムのコンクリート表面含浸材で、コンクリートに無機コロイドゾルが浸透して、毛細孔、ひび割れなどに浸透して緻密化し、コンクリートの劣化防止、鉄筋の腐食抑制など、耐久性を向上させる。	■					○ R6	○	○	○	○	7件	7件		QS-150019-VE				
12	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>KSボンド</b> 既設構造物とフレッシュコンクリート間に用いる土木用高耐久型エポキシ系接着剤。従来は、モルタル・コンクリート塗り継ぎ用エポキシ樹脂系接着剤で対応していた。本技術の活用により、接着効果が確実になるため、品質、安全性、経済性の向上が期待できる。	■						○ R2	○	-	○	23件	2件	21件	KT-160058-VE				
13	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>Sクリート工法</b> 本技術は、コンクリートの耐久性と長寿命化を向上させる複合含浸工法で、従来は、コンクリートに被膜する有機系被膜工法で対応していた。本技術の活用により、施工手順の削減と、湿度下でも含浸材が内部に深く浸透するため、工程の短縮、経済性、品質の向上が図れる。	■						○	○	○	○	7件		7件	KT-160122-VR				
14	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>無機接着剤使用の剥落防止工法</b> 無機接着剤と繊維シートを複合使用した剥落防止工法で、従来は、ポリマーモルタル補修工法で対応していた。本技術の活用により、施工後の可視化可能で下地コンクリート・繊維シートの挙動監視が容易となり、後々のメンテナンスが容易になると共に安全・経済性向上が図れる。	■						○	○	○	○	1件		1件	KT-160123-VR				
15	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>ダイナミックレジシ ストロングガード工法</b> 本技術は、有機系繊維シートを用いて、橋梁やトンネルなどのコンクリート片のはく落を抑制・防止する工法であり、従来はガラスクロス接着工法で対応していた。本技術の活用により、不陸修正工や中塗り塗布工等が削減され、工程の短縮となるため、経済性の向上が図れる。	■						○	○	-	○	2件		2件	KT-160153-VR				
16	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>コンクリート改質・劣化防止剤「カルサブリ」、「リアクトライズ」</b> 本技術は、カルシウム補助剤併用の表面含浸剤で、従来はエポキシ樹脂等による表面被覆工法で対応していた。本技術の活用により大幅なコストダウン及び工程の削減が図れる。	■						○	○	○	○	7件		7件	SK-160004-VR				
17	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>コンクリート劣化抑制表面含浸工法 ジルコンパーミエイト</b> 本工法は、コンクリート表面に回収水を再利用した改質促進材(特殊Ca水溶液)を塗布し、反応型けい酸塩系表面含浸材を塗布することで、混合セメント(高炉セメント、フライアッシュセメント等)を使用したコンクリート等に対して高い劣化因子抑制効果を発揮できる。	■						○	○	○	○	0件			QS-160027-VR				
18	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強 〈増厚〉	<b>CCF「小型コンクリートフィニッシャー」</b> 本技術は、橋梁補修補強工(上面増厚工)に使用するコンクリート舗装機械で、従来は増厚専用コンクリートフィニッシャーで対応していた。本技術の活用により、クレーン付きトラック(4t車)による運搬・荷下ろしが可能となり、経済性や安全性さらに施工性の向上が図れる。	■						○	○	-	○	0件			KT-170004-A				
19	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>タフガードクリヤー工法</b> 本技術は、コンクリート構造物に保護性能を付与すると共に、透明塗膜により視認性を確保する工法で、従来はエナメル塗膜(有色)による表面保護工法で対応していた。本技術の活用により、目視での簡便かつ正確な調査ができるため、維持管理性の向上が図れる。	■						○	-	○	-	8件	1件	7件	KT-170015-VR				
20	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>寒冷地仕様コンクリート注入材「リボキシCR-1500」</b> 本技術は、寒冷地仕様のコンクリート注入材で、従来はエポキシ樹脂系注入材によるひび割れ補修工で対応していた。本技術の活用により、-10℃～5℃の低温において、短時間で十分な接着性および強度が発現できることから、工程の短縮および経済性、施工性の向上が図れる。	■						○	○	-	○	0件			KT-170019-A				
21	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>含浸系吸水防止材「ボルトガードディーブインシラン」</b> 本技術は、コンクリート構造物の塩害、中性化等の劣化を抑制し耐久性を向上させる技術で、従来は多層塗膜による有機系表面被覆工法で対応していた。本技術の活用により、1種類の材料で十分な含浸効果が期待できるため、工程の短縮および経済性の向上が図れる。	■						○	○	○	○	5件		5件	KT-170020-A				
22	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>2液混合型けい酸塩系表面含浸材CS-21ビルダー</b> 2液混合型の反応型けい酸塩系表面含浸材。混合液塗布のみで、散水を伴う工程は不要。水酸化カルシウムを補給した上で、微細空隙の継続的な充填性を保持。中性化したコンクリート表層部を緻密化し、水や劣化因子の侵入を長期間抑制。構造物を長寿命化させる表面保護工法。	■						○	○	○	○	4件		4件	CG-170009-A				
23	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>タフストップ</b> 本材料は水性シラン系表面含浸材で、コンクリート表面に1回塗りすることで塩化物イオン浸透抵抗性、中性化に対する抵抗性、吸水抵抗性、水蒸気透過性等の性能に優れた特性を発揮できる。本材料の活用により、耐塩害性及び施工性の向上が期待できる。	■						○	-	○	○	4件		4件	QS-170034-A				
24	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>バジリスクER7 液体ひび割れ補修剤</b> 本技術は、バクテリアの代謝活動を利用した液状のコンクリートひび割れ補修剤であり、従来は、樹脂注入工法で対応していた。本技術の活用により、材料費・施工費の削減や工期の短縮化を期待できる。	■							○	○	-	○	0件			HK-180017-A			
25	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>けい酸リチウム系混合型表面含浸材「RCガードCE TYPE-Li」</b> 本技術は、新設、既設コンクリート構造物に塗布することで、表層部を緻密化するけい酸リチウム系混合型表面含浸工法で、従来は表面被覆工法で対応していた。本技術の活用により、塩害、凍害、中性化の抑止効果が得られ、コンクリートの耐久性が向上し、品質の向上が図れる。	■						○	○	○	○	5件		5件	KT-180024-A				
26	措置 （新工法・ 新材料）	コンクリート 補修・補強	<b>カルシウム付与剤併用型表面含浸工法「プラスCa」</b> 本技術は、既設構造物や混合セメントなどカルシウムが不足したコンクリートに塗布することで、表層部を緻密化するカルシウム付与剤併用型表面含浸工法で、従来は表面被覆工法で対応していた。本技術の活用により、表面含浸材本来の性能が発揮され、品質の向上が図れる。	■						○	○	○	○	0件			KT-180101-A				

No.	分類項目	小分類項目	技術名称	新技術開発システム (NETIS)										性能カタログ※1							
				掲載 ※NETISサイ トに移動しま す	NETIS (有用な新技術) ※2				従来技術との比較※3 (※技術開発者の申請情報) ○: 従来技術より向上 -: 従来技術と同程度 △: 従来技術より低下・増加				NETISの 活用効果調査件数※4		NETIS登録番号	掲載 ※性能カタ ログペー ジに移動 します	技術の 性能確認 シート	性能カタログ 番号			
					推奨技術	準推 奨技術	評価 促進技術	活用 促進技術	経済性	工程	品質	施工性	全体	中国地整					他地整		
27	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>けい酸カリウムを主成分としたけい酸塩系表面含浸材(シリカリ)</b> 添加剤の配合比率を変更したことで、浸透性が向上し、表面に残らず白化が目立たない工法。塗布後の 散水洗浄不要で、工期短縮・コストダウンにつながり、含浸材の溶出もなくなり環境への影響も低 減可能。また、よりコンクリート構造物を緻密化し、優れた止水性能を有する。	■						○	○	-	-	3件		3件	CB-180026-A				
28	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>ポンドVMネットレス工法</b> 繊維シートの不要なコンクリート片はく落防止工法の技術で、従来はビニロンシートを用いたはく落 防止工法を使用していた。本技術の活用により、経済性、施工性の向上、工程の短縮が期待できる。	■						○	○	-	○	8件		8件	KK-180053-VR				
29	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>高性能シラン系含浸工法 「エルシーセイパー工法(RS II/SF II)」</b> 本技術は、従来のシラン系含浸材より浸透性が高く、施工時にダレにくい材料を使用する工法である ため、所定量を1回で塗布できるとともに、施工が容易で工期短縮によりコスト削減が期待できる。	■						○	○	○	○	2件		2件	QS-180010-A				
30	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>ポリマーセメント系表面被覆工法 「UBEレジスト工法」</b> 本技術は、コンクリート構造物の表面部から塩化物イオンや炭酸ガス、水、酸素などの侵入を抑制す ることで、中性化や塩害などの劣化を抑制するポリマーセメント系表面被覆工法である。従来の表面 被覆工事に比べ、工期短縮によるコスト削減が可能である。	■						○	○	-	-	1件		1件	TH-190006-A				
31	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>ダイナミックレジン クリアタフレジン工法</b> 本技術は、特殊透明樹脂と特殊繊維シートの組合わせにより、コンクリート片のはく落防止する技 術であり、従来はガラスクロス接着工法で対応していた。本技術の活用により、施工後下地の劣化状 況を目標により確認ができるため、点検及び維持管理が容易となる。	■						○	○	○	-	1件		1件	KT-190046-A				
32	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>簡易給水方式による脱塩、再アルカリ化および電着工法(塩害対策)</b> 本技術は、塩害や中性化により劣化したコンクリートを健全な状態に回復できる電気化学的補修工法 で、従来は断面修復工法で対応していた。本技術の活用により、既設コンクリートのはつり作業が低 減され、施工性の向上と周辺環境への影響抑制が図れる。	■						○	△	○	○	0件			KT-190114-A				
33	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>簡易給水方式による脱塩、再アルカリ化および電着工法(中性化対策)</b> 本技術は、塩害や中性化により劣化したコンクリートを健全な状態に回復できる電気化学的補修工法 で、従来は断面修復工法で対応していた。本技術の活用により、既設コンクリートのはつり作業が低 減され、施工性の向上と周辺環境への影響抑制が図れる。	■						○	○	○	○	0件			KT-190115-A				
34	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>ライフテックス水性はく落対策工法</b> 本技術は、全工程を非危険物で構成した水性はく落対策工法で、従来は危険物を使用したはく落対 策工法で対応していた。本技術の活用により、施工時の火災への安全性が向上し、作業員の人体への安 全性、周辺環境への負荷を低減できる。	■						○	○	○	-	0件			KT-190117-A				
35	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>シラン系とケイ酸塩系の特長を併せ持つハイブリッド型表面含浸材(サンハイド ロックL2)</b> 本技術は、表面を疎水化しながら空気の閉塞を同時に行うことで高い長寿命効果を持つハイブリッ ド型表面含浸材である。従来のシラン系とケイ酸塩系の特長を併せ持っている。本技術を使用すれば どのような現場でも高い保護効果を発揮することが期待できる。	■						○	-	○	-	15件		15件	CB-190021-VE				
36	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>e-ジェクター工法 「自動式樹脂注入工法」</b> 本技術は、コンクリートひび割れ注入において低圧注入を自動で行える注入製の製品技術であり、従 来はクラック処理工(ポンプによりひび割れ注入を行う工法)であった。本技術の活用により、施工性 の向上、所要日数の短縮が期待できる。	■						△	○	-	○	2件		2件	KK-190024-A				
37	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>無繊維透明樹脂型コンクリート表面保護・はく落防止工法</b> コンクリートの表面保護・はく落防止として、繊維シート工法が従来は使用されてきたが、本工法は 透明度の高い1成分高強度ウレタン樹脂で構成された工法で、施工後の劣化状況の見える化、2工程、 攪拌作業を不要にすることで、工期短縮、人員削減を可能とした。	■						○	○	○	○	15件	3件	12件	CG-190009-VR				
38	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>亜硝酸リチウム併用型表面含浸工法 「プロコンガードシステムS」</b> 本技術は、亜硝酸リチウムとシラン・シロキサン系含浸材を組み合わせた亜硝酸リチウム併用型表面 含浸工法である。シラン・シロキサンによる劣化因子の遮断に加え、亜硝酸リチウムによる鉄腐食 抑制効果とアルカリシリカゲル膨張抑制効果を付加価値として備えている。	■						△	△	○	-	4件	1件	3件	CG-190024-A				
39	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>ひび割れへのシールテープ 「せこたん」を用いた手動式低圧注入工法</b> 本技術は、注入材の充填状況を可視化するテープと手動式低圧注入工法を用いる技術で、従来は不透 明なシール材を用いた自動式低圧注入工法で対応していた。本技術の活用により、充填状況を確認し つつ最適な圧力で注入できるため、品質及び作業効率の向上が期待できる。	■						○	○	○	○	2件		2件	TH-200001-A				
40	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>けい酸塩系表面含浸材を塗布した表面被覆材を用いた表面処理工法 《インフララップ》</b> 本技術は、けい酸塩系表面含浸材を塗布した表面被覆材にコンクリート面を張付け、水和反応を促進 させる湿潤養生後に表面被覆材を撤去する工法で、従来はけい酸塩系表面含浸工法で対応していた。 本技術の活用により、コスト削減が図られ、品質の均一性が向上する。	■						○	△	○	○	0件			TH-200005-A				
41	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>コンクリート保護シート 「KYÖZIN」</b> 本技術は、コンクリート構造物の劣化を防止する高耐久塗料をシート化したコンクリート保護シ ートで、従来はコンクリート保護用の表面被覆塗料で対応していた。本技術の活用により、構造物の表 面に保護シートを貼るだけの施工となるため、施工性の向上が図れる。	■						△	○	-	○	0件			KT-200107-A				
42	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>IZW.Shield (塗布後の養生時間が2時間のシラン系表面含浸材)</b> 塗布後2時間養生で疎水層が形成されるシラン系表面含浸材。従来のシラン系表面含浸材は、塗布後 4～24時間程度の養生が必要だったが、本技術の活用により、晴日が連続しにくい雨季等の工程管理 がしやすくなり、急激な降雨による再塗布の確率も低下する。	■						△	○	-	○	4件		4件	CB-200002-A				
43	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>コンクリートプロテクト工法</b> 本技術は、コンクリート表面にポリウレタン樹脂を塗布し耐久性・防水性・耐摩耗性を向上させる工法 技術であり、従来はエポキシ樹脂とガラスクロスを用いた保護工法(手塗り工法)であった。本技術の 活用により経済性、品質、施工性向上、周辺環境影響抑制、工期短縮が期待できる。	■						○	○	○	○	0件			KK-200050-A				
44	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>撥水作用を付与したオールインワンのコンクリート表面含浸剤</b> 本技術は、1液の塗布でコンクリート表面部の品質を改善し耐久性の向上を図る1液型のけい酸塩系表 面含浸剤である。従来では表面含浸剤と補助剤の2液を別々に塗布する必要があったが、本技術を活 用することで材工費の削減による経済性の向上や工程の短縮が図れる。	■						○	○	○	○	5件		5件	SK-200001-VR				
45	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>補強型コンクリートはく落防止工法</b> 本技術は、表面保護工(コンクリート)に関する技術である。ポリイソシアネート化合物と、活性水 素を持つアミン化合物をスプレーガン内で混合させ、化学反応によりポリウレタン樹脂を生成し、コ ンクリート表面に強靱な被膜を形成し、長寿命化を実現する工法である。	■						△	○	○	○	0件			QS-200020-A				
46	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>ケイ酸塩系表面浸透材 エパークリート ベトロフルド</b> コンクリート構造物に塗布することで、コンクリート表面部の空隙を緻密化し、防水、表面強度向上 等の効果を発揮し、コンクリート構造物の延命化を図るケイ酸塩系技術。	■						○	○	-	○	0件			OK-200001-A				
47	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>ポンドVMクリア工法</b> 本技術は、強靱で耐候性に優れた透明なウレタン樹脂を用いたコンクリート片剥落防止工法 で、従来はビニロンシートと不透明な樹脂で対応していた。本技術の活用により、下地の視認、工期 短縮が可能となり、安全性、経済性の向上が図れる。	■						○	○	△	○	14件	5件	9件	KT-210065-VR				
48	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>下地視認可能型省工程剥落防止工法 ダイナミックレジンクリアタフレジンクイック</b> 特殊透明樹脂によりコンクリート片のはく落防止する技術であり、従来はガラスクロス接着工法で 対応していた。本技術の活用により、施工後に下地の劣化状況を目視確認できるため、点検及び維持 管理が容易となり、また工程も短縮されているため、経済性も向上する。	■						○	○	-	○	2件		2件	KT-210087-A				
49	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>塗布量管理革命 「シールdeチェッカー」</b> コンクリート構造物の表面に貼り付けて、コンクリート表面含浸材が規定塗布量以上に塗布又は散布 されているかを確認するための塗布量確認シールである。従来のマット式確認法は3工程が必要であ ったが、本技術は変色確認の1工程で済み、経済性の向上や工程の短縮が図れる。	■						○	R5	○	-	○	10件		10件	SK-210002-VE			
50	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>ポリウレタン樹脂を用いたコンクリート構造物の機能保持・向上技術 「タフネスコート工法」</b> 本技術は、高架道路伸縮継手の取り換えや床版の表面切削において、低騒音型コンクリート撤去装置 を用いた工法で、従来はブレードを使用し人力手はつり作業で対応していた。本技術の活用により、 低騒音・低振動での施工が可能となるため、周辺環境への影響抑制が図れる。	■						○	○	-	○	0件			QS-210065-A				
51	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>ハンドミストジェット工法</b> 本技術は、ウォータージェット技術を応用してコンクリート・鋼構造物の旧塗膜及び錆等の除去を行 う技術であり、従来はサンダーブレンで対応していた。本技術の活用により、周辺環境への影響を抑制 でき、機械化による施工品質の向上が図れる。	■						△	○	○	○	0件			KT-220012-A				
52	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>コンクリート構造物補修材料EXGRIPエアシリーズ</b> 本技術は、補修部分が湿潤状態でも施工可能な水性エポキシ、水性アクリル製の補修材で、従来は 表面被覆工(コンクリート保護塗装CC-B)で対応していた。本技術の活用により補修部分は、湿潤場 での乾燥、塩害面での塩分除去洗浄が不要となる為、工程が短縮する。	■						○	○	-	○	0件			KT-220034-A				
53	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>コンクリート打放し用の仕上げ材 「シェルトクリヤ」</b> 本技術は、コンクリート構造物の表面を水分や塩分等から保護する水性のクリヤ塗料で、従来は、シ ラン系表面含浸材で対応していた。本技術の活用により、コンクリートの中性化および塩分の浸透を 抑制する効果が高く、低VOC材料であるため、品質および安全性の向上が図れる。	■						○	△	○	△	1件		1件	KT-220060-A				
54	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>スパイラルアンカー工法</b> 本技術は、目直し処理と定着具異形棒鋼等により既設コンクリート構造物と一体化させると施工 せん断補強工法で、従来は鋼板接着工法で対応していた。本技術の活用により、鋼板の設置作業が不 要となり、振動・粉塵が低減できるため、施工性、経済性及び環境の向上が図れる。	■						○	○	-	○	0件			KT-220139-A				
55	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>含浸系吸水防止材 「ベネトランドシラン」</b> 本技術は、コンクリート構造物の劣化進行を抑制できる、有機溶剤を含まない無溶剤型のシラン系表 面含浸材で、従来は、表面被覆工(コンクリート保護工)で対応していた。本技術の活用により、使 用する材料が1種類となり、作業工程を低減できるため、工程の短縮が図れる。	■						○	○	-	○	0件			KT-220204-A				
56	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>ナノシリカ系表面含浸材 コンクリートリバイブ CPT-2000</b> 本技術は、ナノシリカ系コンクリート含浸材で、従来はけい酸塩系コンクリート表面含浸材で対応し ていた。本技術の活用により、含浸剤の塗布前に行う散水作業が不要となるため施工性が向上し工期 の短縮が図れる。	■						○	○	○	○	0件			KT-220245-A				

No.	分類項目	小分類項目	技術名称	新技術開発システム (NETIS)										性能カタログ※1					
				掲載 ※NETISサイ トに移動しま す	NETIS (有用な新技術) ※2				従来技術との比較※3 (※技術開発者の申請情報)				NETISの 活用効果調査件数※4		NETIS登録番号	掲載 ※性能カタ ログペー ジに移動 します	技術の 性能確認 シート	性能カタログ番号	
					推奨技術	準推 奨技術	評価 促進技術	活用 促進技術	経済性	工程	品質	施工性	全体	中国地整					他地整
57	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>ハイブリッド・塩害補強工法</b> 塩害を受けたコンクリート構造物において鉄筋腐食抑制型シラン系含浸材塗布面に連続繊維シート補強を可能にした工法であり、従来は亜硝酸リチウム混入型断面修復材による補修後に連続繊維シート補強を行っていた。本技術により経済性や周辺環境向上及び工期短縮が期待できる。	■						○	○	-	-	0件			HR-220007-A		
58	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>シラン・シロキサン系複合高濃度含浸材を用いた親水性工法</b> 本技術は、シラン・シロキサン系複合高濃度含浸材と親水化剤によるコンクリート表面保護工法の技術であり、従来はシラン系表面含浸材であった。本技術の活用により、耐久性向上による品質向上、経済性向上が期待できる。	■						○	-	○	-	0件			KK-220004-A		
59	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>コンクリート用有機系表面保護材「U-レジストクリアコート/ガード」</b> 本技術は、エポキシ樹脂と強靱なウレタン樹脂を主材料に用い、コンクリートへの劣化因子の侵入防止と、はく落防止の両方が可能となる表面保護技術である。塗膜が透明でメッシュも使用しないため、施工後の構造物の点検が容易で、工期短縮・施工費の削減も可能である。	■						○	○	○	○	0件			CG-220023-A		
60	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強 (増厚)	<b>N・Sグリッド工法</b> 本技術は、CFRPグリッドとファイアッシュ(10%超)入りのポリマーセメントモルタルでコンクリート構造物を補修・補強する技術である。従来の補強鉄筋増厚工法との比較では、グリッドの軽量化が図れるとともにモルタルの打設厚を薄くできる。	■						○	○	○	○	0件			SK-220009-A		
61	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>シラン系けい酸リチウムハイブリッド型表面含浸材ドライブロテクト</b> 本技術は、シラン系・けい酸塩系のハイブリッド型含浸材で、従来は表面含浸工(シラン系表面含浸材)で対応していた。本技術の活用により品質、経済性、施工性が向上し、工程が少く工期の短縮が期待できる。	■						○	○	○	○	0件			HK-230010-A		
62	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>トンネル・橋梁補修・補強用繊維シート接着工法「ガイナSHシートボード工法」</b> 高目付特殊積層繊維シートをセパレータを縫製した特殊積層繊維シートを接着剤で帯板状に接着後、含浸材を塗布してFRP化させ補強する工法。従来は炭素繊維シートを全面に2層貼りしていたが、本技術は1層で帯板状に設置できるので施工面積が少なくなり、経済性が向上する。	■						○	○	-	-	0件			KT-230046-A		
63	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強 (増厚)	<b>床版上面薄層増厚補強工法「スラブガード工法」</b> 本技術は既設コンクリート床版の上面に鋼繊維を配合した超強度で緻密なモルタルを厚さ20mmの薄層で打設して補修・補強を行う工法で、従来はSFRCによる床版上面増厚工法で対応していた。本技術の活用により高い防水性、遮塩性等を確保できるため、品質の向上が図れる。	■						○	-	○	-	0件			KT-230055-A		
64	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>Protec No.1 高分子系コンクリート劣化防止剤</b> 本技術は、塩化マグネシウムとケイ酸カリウムを混合したコンクリート劣化防止剤で、従来は、シラン系表面含浸剤で対応していた。本技術の活用により材料の使用量が1/3程度となり、1㎡当たりの材料費が低減できるので、経済性が向上する。	■						○	○	○	○	0件			KT-230139-A		
65	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>省工程剥落防止対策「STUクリアシート-S工法」</b> 本技術は連続繊維を樹脂でラミネートしたほぼ透明のシート1層を消防法上非危険物となる接着剤で貼付けるだけの剥落防止工法である。従来は連続繊維シート含浸工法で対応していた。本技術の活用により、コスト削減と工期の短縮、火災事故への安全性が向上する。	■						○	○	○	○	0件			KT-230146-A		
66	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>コンクリート構造物簡易補修材「タフガードリベアスプレー」</b> 本技術はコンクリート剥離部や鉄筋露出部に塗装し簡易的な剥落防止対策や防食効果がある1液エアゾールスプレー缶タイプ補修材で、従来は高濃度亜鉛未錆止めスプレーで行っていた。本技術の活用により本格補修までの間、躯体再劣化・剥落を予防できるため安全性が向上する。	■						△	-	○	○	1件	1件		KT-230168-A		
67	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>透明なはく落防止対策「ニュークリアクロス工法」</b> 本技術は、コンクリートはく落防止対策工について、含浸により透明になるゼニロン繊維シートを用いた技術である。従来は有色のゼニロン繊維シートで行っていた。本技術の活用により構造物の表面状態を目で観察することが可能なため、施工性(維持管理時)の向上が図れる。	■						△	○	-	○	1件	1件		KT-230176-A		
68	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>高機能表面含浸材「Jシールド」</b> 本技術は、コンクリート表面に塗布または噴霧して防水層を形成するジェル状のシラン・シロキサン系表面含浸材である。従来はシラン系表面含浸材を使用していた。本技術の活用により、1回塗りで施工できる他、中性化対策にも効果があるため、施工性・品質の向上が図れる。	■						○	○	○	○	0件			KT-230268-A		
69	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>コンクリートひび割れ補修工法「マイクロカプセルGP工法」</b> 本技術は、コンクリート構造物のひび割れ補修におけるカプセル型のジオマー注入工法である。従来は、エポキシ樹脂系注入材で行っていた。本技術の活用により、計量不要かつ短時間の攪拌で練り混ぜが可能となるため、施工性の向上が図れる。	■						-	-	○	○	0件			KT-230319-A		
70	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>コンクリート構造物への高粘度材料高圧注入補修工法</b> 本技術は、コンクリートのひび割れ注入工について、専用注入器具を用いて高粘度材料の補修材を高圧注入する工法である。従来は、低粘度材料の補修材を低圧注入で行っていた。本技術の活用により、液だれが無く、空隙に補修材が留まりやすくなるため、品質の向上が図れる。	■						△	○	○	-	0件			KT-230339-A		
71	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>HTパネル工法</b> 本技術は、成型版によるコンクリート補修・補強する工法であり、従来は鋼板接着工法で対応していた。本技術の軽量化成型版に変えたことにより、施工手間の省力化が図られ、工期の短縮や施工費の削減が期待できる。	■						○	○	-	○	0件			HR-230008-A		
72	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>鉄筋腐食抑制型シラン系表面含浸材「アクアシール1400AR」</b> コンクリート構造物の鉄筋腐食抑制効果高めたい際に用いるシラン系表面含浸材。従来は鉄筋腐食抑制効果を付与する亜硝酸リチウム水溶液とシラン系表面含浸材の2材料2工程で対応していたが、本技術の活用により材料費や工程数が減少し、経済性の向上が図れる。	■						○	○	-	-	1件	1件		KK-230014-A		
73	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>ポリウレタン樹脂による剥落防止工法</b> コンクリート構造物に高強度のポリウレタン樹脂を吹付けて剥落を防止する工法。従来は連続繊維シート工法で対応していた。本技術は高強度・高耐久性素材の樹脂を吹付けることにより、塗り重ねや連続シートの含浸接着の工程が省略でき、工期短縮及び経済性・施工性の向上が図れる。	■						○	○	○	○	0件			KK-230027-A		
74	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>浸透性アクリル系樹脂注入材「クラックブロック」</b> アクリル系樹脂注入材をローラーや刷毛で塗布・浸透させるコンクリート構造物のひび割れ補修工法。従来はエポキシ樹脂系注入材による低圧注入工法で対応していたが、この技術では粘度の低い注入材の塗布作業により、注入に係る作業が削減され、施工性の向上や工期短縮が可能となる。	■						○	○	-	○	2件	2件		QS-230015-A		
75	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>炭素繊維接着「APLASシート工法」</b> 本技術は、コンクリート構造物の補修補強に用いるフレキシブルな熱可塑性CFRPシートであり、従来は、エポキシ樹脂を現場で炭素繊維シートに含浸させる「炭素繊維接着工法」で対応していた。本技術の活用により、施工性、経済性向上、工期短縮が図れる。	■						○	○	-	○	0件			KK-240024-A		
76	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>ネットレスはく落対策「ワンバインドスプレー工法」</b> 本技術は、コンクリート構造物に薄層でも強靱な塗膜を形成するポリウレタン樹脂を吹付けてはく落を防止する工法である。薄層塗布で所定の押し抜き性能を確保し、有害ガスの発生量が抑えられるためトンネル坑内でも使用できる。	■						○	○	○	○	0件			KK-240043-A		
77	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>水性樹脂を用いた省工程型のはく落防止工法</b> 本技術は、コンクリート剥落防止工法であり、従来は、多工程で、溶剤型樹脂塗料を使用する繊維シート工法で対応していた。本技術の活用により、省工程施工による工期短縮の実現と、水性樹脂塗料を使用することによる、周辺、作業環境への影響の低減、安全性の向上が期待できる。	■						○	○	-	-	0件			KK-240050-A		
78	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>ONR工法 はく落防止仕様V2</b> 本技術は、ポリエーテルアクリル系塗料と高弾性ゼニロン繊維シートを採用したはく落防止工法である。従来のエポキシ樹脂系含浸材と炭素繊維シートを用いた連続繊維シート工法と比べて、本技術の活用により、工期短縮による省人化や材料の変更によりコスト削減が可能となる。	■						○	○	-	○	0件			KK-240055-A		
79	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>BMシート工法</b> コンクリート構造物におけるパサルトメッシュおよび高分子系浸透性防水材を用いた剥落防止工法で、従来は連続繊維シート工法で対応していた。本技術の活用により、工期短縮とコストダウン、および安全性・施工性の向上と周辺環境への影響抑制が図れる。	■						○	○	○	○	0件			KK-240058-A		
80	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>はく落防止メッシュシート直貼り工法</b> 本技術は、劣化したコンクリート構造物に直接設置するはく落防止工法であり、従来は連続繊維シート工法で対応していた。劣化したコンクリート構造物にVメッシュをアンカーで固定するのみの工法であり、経済性、工程、施工性、周辺環境への影響の向上が図れる。	■						○	○	-	○	0件			KK-240065-A		
81	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>はく落対策「ガイナメッシュ工法Sタイプ」</b> 本技術は、ポリエステル繊維にPVCコーティングを施したメッシュをコンクリートアンカーと押さえ金具で固定し、コンクリートのはく落を防止する工法で、従来工法に比べてプライマー工や不陸修正工が不要となり、工期短縮とコスト削減となる。	■						○	○	-	-	0件			KK-240069-A		
82	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>表面被覆工法「シリコンガードシステム」</b> 本技術は、水系材料を用いたコンクリート構造物の表面被覆工法であり、従来はCC-B塗料で対応していた。本技術の活用により、すべて水系材料で構成し塗布回数も比較的小さいため経済性・安全性・施工性・品質が向上し、工期短縮と環境への影響抑制に優れる。	■						○	○	○	○	0件			KK-240075-A		
83	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 補修・補強	<b>コンクリート構造物の表面保護材「セラマックスFT70(塗るゴム)」</b> 本技術は、橋梁補修工(表面被覆工)に関する技術である。従来は3層塗布が必要であったが、1層塗布による表面被覆工が可能であるため、省力化により施工性の向上および工期の短縮が可能である。また、塗料に有機溶剤の含有量が少ないため、周辺環境への影響が軽減できる。	■						△	○	-	○	0件			QS-240009-A		
84	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>コンクリート打ち継ぎ用接着剤(ショールド#202-72h)</b> 本技術は、コンクリート表面の湿潤状況に左右され無い打設有効時間の長い打ち継ぎ用接着剤で、従来はコンクリート表面が乾燥状態で使用するエポキシ樹脂系接着剤で対応していた。本技術の活用により、コンクリート表面が湿潤でも強力に接着するので、品質の向上が図れる。	■						○	○	○	○	25件	1件	24件	KT-140073-VE		
85	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>塩害対策用断面修復材「デンカコロフィックス」</b> 本技術は、ポリマーセメントモルタルに塩化物イオン固定化材を添加しコンクリートの塩害防止性能を高めた断面修復材で、従来はポリマーセメントモルタルで対応していた。本技術の活用により、塩害劣化を大幅に抑制できるので、耐久性の向上が図れます。	■						○	○	○	○	7件	7件		KT-150080-VR		
86	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>NCショット</b> コンクリート構造物の補修補強工事に用いる断面修復材。従来、その骨材として使用していた天然砂の代わりに、高炉水砕スラグを独自の球形化技術にて加工し、プレミックスモルタル化した。本技術の活用により耐久性、耐靱性などの品質向上が期待できる。	■						○ R1	-	-	○	○	15件	15件	QS-150001-VE		

No.	分類項目	小分類項目	技術名称	新技術開発システム (NETIS)											性能カタログ※1					
				掲載 ※NETISサイ トに移動しま す	NETIS (有用な新技術) ※2				従来技術との比較※3 (※技術開発者の申請情報)				NETISの 活用効果調査件数※4			NETIS登録番号	掲載 ※性能カタ ログペー ジに移動 します	技術の 性能確認 シート	性能カタログ番号	
					推奨技術	準推 奨技術	評価 促進技術	活用 促進技術	経済性	工程	品質	施工性	全体	中国地整	他地整					
87	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>コンクリート構造物の断面修復材料「コムラテシリーズ」</b> 超速硬ポリマーセメントモルタルまたはコンクリートにより、劣化損傷したコンクリート構造物の断面修復を行う技術。従来は超速硬コンクリートで対応していた。本技術の活用により、乾燥収縮が小さく、付着性・耐久性に優れた断面修復が可能である。	■					○ R1	○	○	○	○	41件	13件	28件	QS-150017-VE			
88	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>左官アシスト工法</b> コンクリート構造物の農業用水路の補修工法の一つである無機系表面被覆工法を一部機械化することで施工の省人化(少子高齢化・担い手不足解消も含む)、仕上がり品質の平準化、生産性向上、コスト低減が可能。	■						○	○	○	○	7件		7件	HK-170017-VE			
89	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>ガッチリ浸透プライマーW/ガッチリ浸透プライマー寒冷地</b> 本技術は、劣化した無機質系材料の表層脆弱部に浸透し強化する下地処理材で、従来は脆弱層のケレン後、モルタル接着増強剤(吸水調整剤)の塗布で対応していた。本技術の活用により、脆弱層を強化しケレンを省略することができるため、経済性の向上が図れる。	■						○	○	-	○	5件		5件	KT-170041-A			
90	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>繊維補強超速硬ポリマーセメントモルタル「リフレモセットSF」</b> 本技術は、劣化したコンクリート構造物の断面修復材で、従来は超速硬コンクリートで対応していた。本技術の活用により、耐久性・付着性・低収縮性が改善され、品質の向上が図れる。また、従来技術に比べて、ハツリ量が減るので、環境、経済性の向上が図れる。	■						○	○	○	○	18件	2件	16件	KT-170058-VR			
91	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>湿潤面対応急速硬化補修材</b> 本技術は、湿潤状態の施工面に適用できる急速硬化・高強度の補修材で、従来は、エポキシ樹脂系断面修復材で対応していた。本技術の活用により、湿潤の施工面であっても接着性が良く、短時間で硬化・強度が発現するため、工程の短縮および施工性、経済性等の向上が図れる。	■						○	○	○	○	0件			KT-170061-A			
92	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>狭隙部対応ウォータージェットはつり工法</b> 本技術は橋梁支保部等の狭隙部の対応可能な機械式ウォータージェットはつり装置を用いた工法であり、従来は人力によるウォータージェット・ハンドガン工法で対応していた。本技術の活用により経済性、安全性、施工性、品質、作業員環境の向上、工程短縮が期待できる。	■						○	○	○	○	0件			KK-170039-A			
93	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>LCユニット工法</b> 本技術は、容易に調節可能なスベラーとユニット化された鉄筋、及び高品質モルタルを組み合わせた補修・補強工法であり、従来は現場組立の鉄筋とポリマーセメントモルタルで施工していた。本技術の活用により、工程の短縮及び経済性の向上が図れる。	■						○	○	-	○	0件			SK-170011-A			
94	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>はつり棒</b> コンクリートの上向きはつり作業において、はつり棒を支持する装置で、従来は、はつり棒を手で把持・押し付けながらの作業で対応していた。本技術の活用により、作業員の身体的負担を軽減でき、作業効率に優れたため、安全性および施工性が向上する。	■						○	○	-	○	1件		1件	QS-170004-A			
95	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>アンカーレス補修工法</b> 本工法は、コンクリート面の断面修復工法であり、鋼製枠設置後充填したモルタルの付着力により引張り、せん断力を向上させる工法である。鋼製枠内の十字鉄筋効果により付着性能を向上させることができる。	■						○	○	○	○	0件			QS-170009-A			
96	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>速硬系ポリマーセメントモルタル「U-リペアパッチEX、U-リペアライトEX」</b> アルミナセメントを含む数種類の結合材を用いた速硬系のポリマーセメントモルタルであり、早期開放及び工期短縮が望まれるコンクリート構造物の補修工事全般に使われる断面修復材である。	■						○	○	-	○	9件	1件	8件	TH-180003-VE			
97	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>セルガード</b> 本業務は、コンクリート構造物を補修する技術で、従来はポリマーセメントモルタルにより補修を行ってきたが、残存錆や塩分の侵入で、再劣化が起こりやすかった。本技術の活用により、再劣化を防止できるようになり、コンクリート構造物の耐久性の向上が図れる。	■						○	-	○	○	1件		1件	KT-180077-A			
98	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>移動コンクリートミキサー</b> 本技術は、プレミックス材等を投入して現場で生コンが製造できる、移動可能で据置型のコンクリートミキサーを用いる工法で、従来技術は生コン工場で製造しアジテータ車で運搬していた。本技術の活用により施工性の向上が期待される。	■						△	-	-	○	1件		1件	KK-180009-A			
99	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>ミクストグラウト</b> コンクリートに発生した、ひび割れや打継ぎ等からの漏水を止水する工法。従来は1液型ポリウレタン樹脂系止水材が用いられていたが漏水量によって止水効果にバラつきが発生していた。本技術は2液混合により自硬性を有する止水材を用いる事で安定した止水効果が得られる。	■						○	○	○	○	1件		1件	CG-180004-A			
100	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>高耐久性断面修復工法「タフショットクリート工法」</b> 本技術は、独自の材料を配合したノンポリマーセメントモルタルを使用することで組織の緻密化を可能とし優れた強度・耐久性を有するため、ライフサイクルコストの低減が可能となり、厚付けにも優れるため工期短縮による経済性の向上が期待できる。	■						○	○	○	○	0件			QS-180044-A			
101	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>塩分吸着型 乾式吹付工法</b> 本技術は、塩分吸着剤を混合したポリマーセメントモルタル(PCM)乾式吹付けによる断面修復工法で、従来は吸着剤を混合しないPCM乾式吹付けであった。本技術の活用により有害な塩化物イオンを吸着して無害化するため、さらなる高耐久性断面が形成でき品質の向上に繋がる。	■						△	-	○	-	1件		1件	KT-190023-A			
102	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>パワーグラウト(自己治癒補修材)</b> コンクリート工における断面補修工事、狭隙部への打設に使用するモルタル材に自己治癒成分をプレミックスした材料で施工後に発生したひび割れに水分が供給されることにより膨潤剤の作用でひび割れが自己閉塞する機能を有した高流動性モルタル材で 構造物保全が期待できる。	■						△	-	○	-	2件		2件	QS-190036-A			
103	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>建設用手持ち工具支持装置「楽サポール」</b> 人手不足と高齢化が深刻な建設業界において、天面及び壁面の「はつり」は、作業員の身体的な負担が大きい。本技術は、はつり棒を支持し、振動の軽減、はつり面に工具を押し付ける力を提供するため、省力化、生産性の向上並びに安全性の向上に寄与するものである。	■						○	○	-	○	2件		2件	CG-200003-A			
104	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>耐塩害タイプポリマーセメントモルタル「U-リペアパッチCT」</b> 塩化物イオンが拡散しにくいポリマーセメントモルタルであり、周辺環境の塩分濃度が高いコンクリート構造物の補修工事においても、鉄筋腐食を抑制して長寿命化できる断面修復材である。	■						○	○	○	○	0件			CG-200019-A			
105	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>特殊混和材を含む高性能プレミックスコンクリート「エムコン」</b> 本技術は、コンクリート工に関する技術である。セメント・絶乾骨材・特殊混和材をプレミックスし特殊性能コンクリートを現場練りできる技術で、従来は、超速硬コンクリートで対応していた。本技術の活用により、多種多様な工事に対応可能となる。	■						△	-	-	○	1件	1件		QS-200058-A			
106	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>RFグラウト</b> 鉄筋コンクリートの断面補修材に塩分浸透を抑制する混和材を添加したポリマーセメントモルタル。従来は、塩分浸透抑制材を含まないポリマーセメントモルタルを用いていた。本技術の活用により、耐塩害性を発揮し鉄筋の防錆効果の更なる向上が図れる。	■						△	-	○	-	0件			KT-220206-A			
107	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>亜硝酸リチウム併用型断面修復工法「リハビリ断面修復工法」</b> 塩害・中性化によって劣化したコンクリートを亜硝酸リチウムを混入した断面修復材を用いて補修する工法。断面修復材に用いる亜硝酸リチウムがコンクリート中へ浸透拡散し、鉄筋の不動態皮膜を再生することで高い防錆環境を構築する。	■						○	○	○	○	4件		4件	CG-220003-A			
108	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>ジオポリマー技術を用いたコンクリート構造物用断面修復材(GP MONDO K)</b> 本技術はコンクリート構造物の断面修復工(左官工法)に関する技術である。酸性環境下の断面修復工(左官工法)において、耐久性を向上させる補修材で、従来はポリマーセメントモルタルで対応していた。本技術の活用により、維持補修の頻度が減少する。	■						△	-	○	-	0件			QS-220023-A			
109	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>移動式オートチップパー工法</b> 本技術は、コンクリート床版脆弱部のはつりにおいて、ウォータージェットによる自走式床版はつり機を用いた工法で、従来は、人力はつり作業で対応していた。本技術の活用により、低騒音・低振動での施工が可能となるため、周辺環境への影響抑制が図れる。	■						△	-	○	○	0件			KT-230010-A			
110	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>粉塵が飛散しない穿孔工具「パワーキュージンドリル PQ4シリーズ」</b> 本技術はコンクリートなどの穿孔時に発生する粉塵をドリル先端部の吸塵孔から吸いながら穿孔できるドリルである。本技術の活用により、粉塵の飛散が減少し作業員環境への影響抑制、養生・清掃時間短縮で施工性向上、工程短縮が図れる。	■						△	○	-	○	2件		2件	KT-230285-A			
111	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>ポリマーセメント系無収縮グラウト材「プレューロックSDXP」</b> 本技術は、無収縮モルタルとポリマーセメントの性能を併せ持つコンクリート構造物の断面修復用グラウト材で、従来は、汎用型無収縮グラウト材で対応していた。本技術の活用により、乾燥ひび割れの抑制や遅延性に優れ、塩分浸透が抑制されるため、品質の向上が図れる。	■						△	-	○	-	0件			KK-230050-A			
112	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>HI-SPECシール工法</b> 本技術はひび割れが発生したコンクリート床版の補修における高浸透型水性エポキシ樹脂を使用した防水機能を持つ下地補修工法で、従来はウォータージェットによる劣化部除去及び断面修復工法で対応していた。本技術の活用によりコスト削減が図られ、品質の向上が期待出来る。	■						○	○	○	-	0件			KK-230060-A			
113	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>3次元出来高・出来形の自動算出ツール「Hatsuly」</b> 本技術は、はつり箇所を点検をモデル化し、はつり深さやふり厚、コンクリート等の必要量を自動算出できる技術で、従来は水糸やメジャーによる深さ・長さの計測及び計算、写真撮影により対応していた。本技術の活用により、少人数でデータ取得・処理ができ省力化が図れる。	■						○	○	○	○	2件	2件		KK-230066-A			
114	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>断面修復材の施工間隔の短縮を図る「リブクイック工法」</b> 本技術は、断面修復材用ポリマーセメントモルタルに凝結促進剤を添加し、施工間隔を短縮する工法で、従来は凝結促進剤を添加しない左官工法で対応していた。本技術の活用により凝結時間の短縮及びコントロールが可能となるため、工程短縮、経済性及び施工性の向上が図れる。	■						○	○	-	○	0件			KK-230077-A			
115	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>CPJ-L (コンパクトジェット-L)</b> 従来は超速硬コンクリートなどを使用していた。本技術は、断面修復材として用いる低弾性ラテックス改質超速硬コンクリートで低収縮性と優れた物質浸透抵抗性を有している。道路橋コンクリート床版を始めとするコンクリート構造物の耐久性向上が期待できる。	■						△	△	○	-	1件		1件	CG-230003-A			
116	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>コンクリート欠損部補強066</b> 本技術は、コンクリート欠損部に用いる密着成分を超微粒子に改良した変性エポキシ樹脂防錆補修・補強剤で、従来は、ポリマーセメントモルタル等で対応していた。本技術の活用により、被塗面との付着性が向上し、防錆処理等の前処理が不要となるため、工程の短縮が図れる。	■						△	○	-	-	0件			KT-240012-A			
117	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>ジェットモルタルシリーズ</b> 本技術は、コンクリート補修工事に使用する、超速硬セメントを用いたプレミックスモルタルである。従来は、生コン工場から出荷されるモルタル(1:3)で対応していた。本技術の活用により、早期交通開放が可能となるため、工程の短縮及び施工性の向上が図られる。	■						△	○	○	○	0件			KT-240042-A			

No.	分類項目	小分類項目	技術名称	新技術開発システム (NETIS)											性能カタログ※1				
				掲載 ※NETISサイ トに移動しま す	NETIS (有用な新技術) ※2				従来技術との比較※3 (※技術開発者の申請情報)				NETISの 活用効果調査件数※4			NETIS登録番号	掲載 ※性能カタ ログページ に移動します	技術の 性能確認 シート	性能カタログ番号
					推奨技術	準推 奨技術	評価 促進技術	活用 促進技術	経済性	工程	品質	施工性	全体	中国地整	他地整				
118	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>繊維強化コンクリートFRC補修・補強材</b> 本技術は、コンクリート構造物の軽くて薄い繊維製のFRC補修・補強材である。従来は、異形鉄筋を配筋していた。本技術の活用により、ポリマーセメントモルタルが不要となるので、経済性の向上が図られる。	■						○	○	○	○	0件			KT-240117-A		
119	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>水溶性錆転換型防錆プライマー「リアロチェンジコート」</b> 本技術は断面修復工の鉄筋ケレン後の残存赤錆等を黒錆に転換させる水溶性錆転換型防錆プライマーである。従来は亜硝酸リチウム配合ポリマーセメント系防錆防錆材を塗布していた。本技術の活用により断面修復材と鉄筋との付着強度が向上し、耐久性、経済性の向上が図れる。	■						○	-	○	○	0件			KK-240019-A		
120	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>断面修復工法「エアショットワ」</b> 本技術は圧縮空気または可塑性エアモルタルを連動式ポンプで製造、圧送する工法で、従来は生コンプラントを利用するか大型プラントを設置し、材料圧送用の配管により施工を行っていた。本技術の活用により材料ロス、人件費が減少し経済性が向上する。	■						○	○	○	○	0件			KK-240029-A		
121	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>トンネル裏込注入工法「MAI440システム」</b> 本技術はエアモルタルまたは可塑性エアモルタルを連動式ポンプで製造、圧送する工法で、従来は生コンプラントを利用するか大型プラントを設置し、材料圧送用の配管により施工を行っていた。本技術の活用により材料ロス、人件費が減少し経済性が向上する。	■						○	-	-	○	0件			KK-240040-A		
122	措置 (新工法・ 新材料)	コンクリート 断面修復	<b>耐摩耗性を向上させた水路補修用「ショウWRP-1工法」</b> 従来技術でもPCMが用いられていたが、本技術は耐摩耗性を向上させており、水路特有の水砂などに耐する耐摩耗性が求められる環境で活用することで構造物の延命化が期待できる。	■						△	-	○	-	0件			KK-240067-A		
123	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>シリコン接着シートを使用した壁高欄防水・防食工</b> 本技術は、シリコン接着シートを用いた橋梁壁高欄目地(遊間)の防水・防食対策のための工法で、従来はポリアジエン樹脂封止で対応していた。本技術の活用により工程の削減・耐久性の向上となり、経済性が向上する。また、耐炎性・安全性も向上する。	■					○ R5	△	○	○	○	40件	9件	31件	TH-140017-VE		
124	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>PPSライニング工法</b> UVPPS工法は、透明性の高いインフラガードUVP(紫外線硬化型FRPシート)を老朽化した鉄等に貼付ける事で、耐久性(耐摩耗性・防錆)、施工性(硬化時間が速く形状不問)、施工後の視認性が向上する。また、伸縮するシートを使用する事で、継ぎ目部の伸縮に対しても対応可能となる。	■					○ R5	△	○	○	○	11件	2件	9件	CG-140016-VE		
125	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>EPP(エコ・ベイント・ビーリング)工法</b> 水性剥離剤を、橋梁などの塗膜に塗布することで、塗膜を浮き上げ除去する工法で、従来はプラスチック工法を用いていた。本技術の活用により、塗膜除去時の粉塵と騒音の発生を防止できる。塗膜に有害物質を含む場合は特に有効である。	■					○ R1	○	○	△	-	48件	10件	38件	KT-150081-VE		
126	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>塗装周期延長耐食鋼(CORSPACE)</b> 本技術は、鋼材に微量添加したスズ(Sn)の効果により、塗膜欠損部の鋼材腐食を低減する構造用鋼材であり、従来は溶接構造用圧延鋼材等が使用されていた。本技術の活用により鋼構造物の塗り替え頻度を低減し維持費用を抑えライフサイクルコストの低減が期待できる。	■						△	-	-	-	14件		14件	KK-150056-VR		
127	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>循環式ハイブリッドプラストシステム</b> 橋梁補修工事において、鋼構造物の素地調整(1種ケレン)やコンクリート劣化部のチッピングを行うための循環式機能付プラスト工法。プラスト処理後のケレンかすを吸引分別し、研削材の再利用が可能。産業廃棄物の排出量低減により経済性の向上、環境負荷低減が期待できる。	■					○ R1	○	○	-	○	15件		15件	QS-150032-VE		
128	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>ECO-SCOP工法</b> 分析用途の塗膜採取の従来技術は、素地調整2種が用いられているが、本技術の採取用具を用いることで、塗膜の採取コスト、作業工程と日数を各段に低減し、塗膜に含む有害物質から作業員の安全と周辺環境の汚染および二次汚染廃棄物の発生が防止できる。	■					○ R2	○	○	○	○	13件		13件	HK-160021-VE		
129	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>ケレン塗膜粉じん飛散防止工法(モイストップK工法)</b> 本技術は、塗膜粉じん飛散防止液で湿潤化する素地調整工法であり、従来は塩素系塗膜剥離剤による塗膜剥離工法で対応していた。本技術の活用により、工程短縮と材料コスト削減ができるため経済性の向上が図れ、かつ、取扱時の危険有害性が減少するため安全性が向上する。	■					○ R4	○	○	-	○	7件	1件	6件	KT-160144-VE		
130	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>パントレ工法</b> 本技術は、生分解性を有する剥離剤を用いて鋼構造物の旧塗膜を湿潤(湿式)除去する技術であり、従来はプラスチック工法で対応していた。本技術の活用により経済性の向上、工程の短縮と、環境への影響抑制が期待できる。	■						○	○	△	△	44件	10件	34件	KK-160028-VE		
131	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>エレクトロリムーバー</b> 鉛、PCB等の有害物質を含む鋼構造物塗膜の1種ケレン素地調整において、エアープラストに先立ち電磁波誘導加熱により塗膜を除去する工法で、従来は、1種ケレン+処分費で対応していた。本技術の活用により、特別管理廃棄物の減容化ができ、経済性が向上する。	■						○	△	-	-	6件	1件	5件	QS-160043-VR		
132	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>リベットシェーパー FT型</b> 本技術は鋼構造物の丸リベット頭部の劣化塗膜・錆などを除去する素地調整用切削工具(無段変速型デスクグラインダーにて使用)で、従来はジェットタガネなどで対応していた。本技術の活用で作業環境の向上、施工性、経済性の向上が図れる。	■						○	○	-	○	0件			KT-170013-A		
133	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>モバイルモニター「イージーMモニター」</b> 本技術は、コンクリート構造物の腐食・防食状態のモバイル型遠隔監視システムで、従来は、現地点検で対応していた。本技術の活用により、遠隔監視ユニット等を使用した定期的な自動計測、機器計測ができるため、品質の向上、工期短縮、安全性と施工性の向上が図れます。	■						△	○	○	○	0件			KT-170043-A		
134	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>無機系防錆プライマー「AR-PRIMER 12.5」</b> 本技術は、炭素繊維を含有した無機系防錆プライマーによる防錆塗装で、従来は、エポキシ樹脂系塗料による防錆塗装で対応していた。本技術の活用により、鋼構造物の防錆および鉄筋コンクリート構造物等の防水等に優れた効果を発揮するため、耐久性の向上が図れる。	■						○	○	○	○	3件	3件		KT-170078-A		
135	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>紫外線硬化型FRPシート「e-シート」</b> 本技術は紫外線硬化型FRPシートによる鋼構造物の鋼板部補修工法で、従来は鉄板溶接による補修で対応していた。本技術の活用により、高い防錆性を有するFRPを補修材料を使用することで、溶接作業が不要となるため、品質の向上、工程の短縮および経済性の向上が図れる。	■						○	○	○	-	39件	12件	27件	KT-170088-VR		
136	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>サビバリヤー</b> 鋼材の再塗装時に、残存してしまう赤錆が腐食の進行の原因となっていたが、その赤錆を塗装により黒錆へ転換させることで、長寿命化や工程短縮が可能になる錆転換下塗り塗装技術である。	■						○	○	○	○	25件		25件	CB-170003-VR		
137	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>リベアソルプS工法</b> 本技術は鋼構造物の塗膜を湿潤剥離する工法である。塗膜に十分に浸透させることで多層塗膜を一度に剥離できる。塗膜が飛散しないため、鉛やPCBなど有害物質含有塗膜の剥離に最適である。水系剥離剤のため、不燃性であり、消防法に非該当である。	■						○	-	-	-	35件	5件	30件	CB-170013-VE		
138	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>亜鉛めっき代替工法「Cold Galvanizing 水性ローバル工法」</b> 申請技術は、工場及び現場における「特殊水性亜鉛塗料」を常温施工により、従来の溶融亜鉛めっきと同等の防食性能を有する塗膜を形成する技術であり、鋼材の寸法・形状・施工場所の制限を受けることがない為、経済性、品質、施工性の向上が期待できる。	■						○	-	○	○	2件		2件	KK-170013-A		
139	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>ナノマイクロ溶射工法</b> 申請技術は、鋼構造物についてアルミニウム-マグネシウム合金を用い、急冷溶射を行うことで長期防食性を有する技術である。従来は亜鉛塗装等に対応していた。本技術の活用によりライフサイクルコスト削減が図られ、品質の向上が期待できる。	■						△	○	○	○	0件			KK-170016-A		
140	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>防錆塗装 さびで錆を制す反応性塗料 バティナロック</b> 本技術は、鋼構造物用の防食塗料であり、塗膜下層表面に緻密で安定的なさび層を形成することにより鋼材の腐食進行を抑えることができる。この技術により3種ケレン3層塗装仕様で、従来のRc4塗装系と同等レベルの耐久性を得られる。	■						○	○	-	○	1件		1件	QS-170007-A		
141	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>線状流電陽極方式電気防食工法</b> 本技術は、コンクリート中の鋼材腐食に対し、線状の流電陽極ユニットを用いて防食する電気防食工法であり、従来は亜鉛シート方式電気防食工法(面状流電陽極方式)で対応していた。本技術の活用により、躯体の変状を目視観察可能となり、安全性の向上が図れる。	■						○	○	○	○	0件			KT-180059-A		
142	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>KKグラウト注入工法</b> 本技術は、空洞部に粉末状のKK防錆剤を圧入しPC鋼材を防錆するグラウト再注入工法で、従来は、通常のグラウト再注入工法で対応していた。本技術の活用により、シース内に空洞部が残存する場合でもPC鋼材の腐食を抑制し、既設PC構造物の耐久性向上が図れる。	■						△	△	○	-	3件		3件	KT-180107-A		
143	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>Znコートリッジ工法</b> 本技術は、陽極の設置方法と被覆材が選択できる流電陽極方式による鋼材腐食緩和工法で、従来はモルタル固定式の流電陽極で対応していた。本技術の活用により、亜鉛の形状寸法が大きく、更に取替が容易となることで、経済性、品質、耐久性および施工性の向上が図れます。	■						○	○	○	○	1件		1件	KT-180150-A		
144	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>アクアリムーバーエコ</b> 本技術は、鋼構造物の塗膜を除去する水系剥離剤です。水系のため、高級アルコール系剥離剤より火災への安全性が向上しています。また、厚膜施工が可能であり、工期短縮が期待できます。	■						○	○	-	○	11件	3件	8件	CB-180010-VR		
145	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>MT-BERON57</b> MT-BERON57は、水系剥離剤の為、人体(作業員)や周辺環境に配慮することができ、従来の剥離剤に含まれている可能性の高い、生類毒性を有するNMP他、ブソドクメン、ジクロロメタン等も含有しない非常に安心・安全な剥離剤で、m当たりの塗布量も0.5kg/mlと経済的である。	■						○	-	-	○	0件			CB-180012-A		
146	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>塗装寿命延長鋼(EXPAL)</b> 本技術は、JIS-SS、SM、SBHS鋼材にJISの範囲内で耐食要素を微量複合添加することによって、塗膜欠陥部からの腐食の広がりを抑え塗装の劣化を抑制する構造用鋼材である。本技術の活用により鋼構造物の塗り替え頻度を低減しライフサイクルコストの低減ができる。	■						△	-	○	-	4件		4件	CB-180015-A		
147	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>水素脆性の心配のない防食技術「ディスコ処理」</b> 本技術は鉄鋼製品に発生する水素脆性(遅れ破壊)が生じにくいクロムフリーの高耐食性表面処理技術であり、従来は溶融亜鉛めっき(HDZ35)を利用していた。本技術の活用により、品質、施工性の向上、LCCコスト削減が期待できる。	■						△	△	○	○	0件			KK-180040-A		
148	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>鋼構造物を主体とした長耐久性防水・防食工法</b> 鋼構造物(主に橋梁接合部の突起部、支那部)の長耐久性の防水・防食工法。対象箇所は3種ケレン程度で十分で、その上に当該テープを貼付、巻付けるだけの簡易施工である。従来は塗装工法に比べ本技術の活用により、工期短縮、経済性・耐久性の向上が図れる。	■						○	○	○	○	4件	1件	3件	SK-180017-A		

No.	分類項目	小分類項目	技術名称	新技術開発システム (NETIS)										性能カタログ※1						
				掲載 ※NETISサイ トに移動しま す	NETIS (有用な新技術) ※2				従来技術との比較※3 (※技術開発者の申請情報) ○: 従来技術より向上 -: 従来技術と同程度 △: 従来技術より低下・増加				NETISの 活用効果調査件数※4			NETIS登録番号	掲載 ※性能カタ ログページ に移動します	技術の 性能確認 シート	性能カタログ番号	
					推奨技術	準推 奨技術	評価 促進技術	活用 促進技術	経済性	工程	品質	施工性	全体	中国地整	他地整					
149	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>ボールキーパー</b> 本技術は、誰でも簡単に施工することができる工法であり、リングの取り付け後にソリッドを充填するだけで鋼製ボールや鋼性の地盤部の錆を防止できる。従来は重防食塗装で対応していたが、本技術の活用によりはつりや複数回塗装が不要となるため、経済性や工程の向上が図れる	■						○	○	-	○	0件			SK-180019-A			
150	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>TAPS工法</b> 独自の開発による小型・軽量の溶射機により、劣化・腐食しやすい鋼橋桁端部等の補修工事で、通常施工の困難な狭隙部において長期防食性やライフサイクルコストの面で優れ、防食性のあるAl-Mg合金によるプラズマアーク溶射を高品質で施工可能な工法である。	■						△	○	○	○	1件		1件	QS-180017-A			
151	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>鋼とコンクリートの付着性向上用吹付材料「ゴムラテコーティング」</b> 鋼・コンクリート複合構造物において、鋼材表面に予め独自ポリマーセメントモルタルを吹付けることで、付着性・防水性を高める技術で、従来は、側鋼板とコンクリート界面へのシール材設置で対応していた。本技術の活用により、界面からの劣化因子の浸入を防止できる。	■						○	○	○	-	1件		1件	QS-180041-A			
152	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>超耐久高純度シリコーン工法</b> 従来技術の重防食塗装(Rc-I 塗装系)に比べ高純度シリコーン樹脂塗料「ガードベイント」のみを3層塗装する。微細なさびが残存しても高機能高耐腐性の弾性塗膜によって強靱に環境遮断できるため素地調整は3種ケレンで済み、イニシャルもランニングもコスト軽減となる。	■						○	○	○	○	0件			HK-190003-A			
153	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>透明ポルトキャップ(透明ポルトアイキャップ)</b> 本技術は、透明ポルトキャップつばのみ接着工法で鋼構造物のポルトを防錆するものである。従来は有色キャップ内に有色接着剤を充填していた。本技術の活用により、ポルトが劣化した場合、点検時透視ができるので、早期対策が可能となり鋼構造物の安全性向上が図れる。	■						△	-	-	○	9件	2件	7件	KT-190082-VE			
154	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>ニューコートポリウレタライニング工法</b> 本技術は吹付け施工タイプのポリウレタ樹脂を用いたコンクリート保護工法で従来はエポキシ樹脂とガラスクロスを用いた保護工法で対応していた。本技術の活用により塗膜表面の硬化が早く、1層で塗膜が形成できるため、工程の短縮が図れる。	■						△	○	○	○	0件			KT-190110-A			
155	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>クリアビラーK工法</b> 本技術は、橋梁等の鋼構造物の既存塗膜を環境対応型の水系塗膜剥離剤を用いて湿式で剥離除去する技術です。水系のため火災のリスクが低減し、コスト削減も期待できる。また、毒性が低く、たれにくい増粘剤を配合することにより環境負荷の低減及び施工性の向上が期待できる。	■						○	-	-	○	3件		3件	CB-190004-A			
156	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>湿粒化研削材によるミストブラスト工法(湿粒ブラスト工法)</b> 本工法は鋼構造物現場防食工事の1種ケレン仕様地調整に用いる湿式ブラスト工法であり、視認性を確保できる安全な作業環境と水洗浄を行うために湿粒化した非金属系研削材を使用し、その材料選択、加水混合比と研削面の戻り錆対策を考慮した湿粒ブラスト工法である。	■						○	△	-	○	3件		3件	CB-190010-A			
157	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>鱗片状亜鉛塗料による鋼材防食技術「ドラル処理」</b> 本技術は鋼材及び亜鉛めっき鋼材に常温で塗装することで亜鉛の犠牲防食作用による防食性能を発揮する高耐食性防錆塗料であり、従来は溶融亜鉛めっき JIS H 8641 HDZ55であった。本技術の活用により、経済性、品質、施工性の向上が期待できる。	■						○	-	○	○	2件		2件	KK-190040-A			
158	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>剥離抑制型防食塗料「αシリーズ」</b> 本技術は、塗膜の線膨張係数が小さい塗料を用いることで剥離リスクを低減する、長期防食性に優れた防食塗装システムである。本技術を適用することにより、低コストかつ高耐久な鋼構造物の塗替え塗装が可能となる。	■						○	△	-	○	0件			SK-190005-A			
159	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>IH塗膜剥離機を用いた分析用塗膜採取法</b> 鋼橋等の塗料成分調査において、IH剥離機+スクレーパーを用いて分析用塗膜を採取する方法で、従来は、スクレーパー+サンダー+完全養生で対応していた。本技術の活用により、分析に適した試料を容易に採取できるため、経済性、安全性および施工性が向上する。	■						○	○	○	○	0件			QS-190003-A			
160	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>超速硬化型下地調整材(KFロードメンテSB)</b> 本技術は、橋梁上部工の床版防水工事の下地・不陸調整材で、従来は、セメント系下地調整塗材で対応していた。本技術の活用により、早期に硬化・付着しかつ超速乾燥を実現したことにより施工後の防水層に膨れや剥がれが生じなくなり、品質ならびに施工性の向上が図れる。	■						△	○	○	○	0件			KT-200043-A			
161	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>ハクリタイトエコST</b> 本技術は鋼構造物の塗膜除去工において、水系剥離剤により旧塗膜を浸透・膨潤・軟化させ、容易に除去できる塗膜除去技術であり、従来は高級アルコール系剥離剤であった。本技術の活用により、経済性、安全性、品質、施工性の向上と、環境への影響抑制が期待できる。	■						○	R6	-	○	9件	4件	5件	KK-200021-VE			
162	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>鋼橋の小規模補修用省工程塗料「超厚膜無溶剤系セラミックエポキシ樹脂塗料」(ブラッシュャブル-エス)</b> 鋼橋塗装工(局部補修)に関する技術。狭隙部またはプラストが使えない腐食損傷箇所の部分的な塗替え塗料で、従来は下塗り中塗り4層、施工日数が4日以上必要であったが、下塗り中塗りを含めて1層での厚膜塗装が可能となり、工程短縮が期待できる。	■						○	○	-	○	4件		4件	QS-200011-A			
163	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>NSアンチラストフィルム</b> 鋼構造物の塗装面に貼付けて防錆するふっ素系塗膜保護フィルム。従来は、増塗り塗装で対応していた。本技術の活用により、塗装における弱点箇所の防食性・耐候性が向上し、鋼構造物の長寿命化が可能となるため、耐久性、施工性の向上および工程の短縮が図れる。	■						△	○	○	○	1件		1件	HK-210006-A			
164	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>IH塗膜剥離機(メクレル)</b> 誘導加熱の原理を採用したケレン工による塗膜剥離を行う技術であり、従来は素地調整前の塗膜剥離による。本技術の活用により、人力による塗膜剥離が可能となる結果、プラスト研削材の不使用による粉塵飛散の予防、剥離後の塗膜回収作業の効率化が期待される。	■						○	△	-	○	0件			KT-210089-A			
165	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>中性型水系剥離剤ECO「STRIPPER」</b> 本技術は中性型水系ECOタイプの剥離剤のため生態影響が少なく安全配慮された工法であり、従来技術は高級アルコール系剥離剤を使用していた。本技術の活用により鋼構造物及びコンクリート構造物の旧塗膜を湿潤化させ効率よく安全に塗膜除去ができるため経済性が向上する。	■						○	-	○	○	1件	1件		CB-210014-A			
166	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>循環式2ノズルバキュームブラスト工法</b> 本技術はプラスト工法において、研削材を回収でき、2ノズルで2人同時施工可能な工法技術であり、従来はプラスト法であった。本技術の活用により、経済性、施工性の向上、工程の短縮、地球環境への影響抑制が期待できる。	■						○	○	-	○	2件	2件		KK-210044-A			
167	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>環境型塗膜剥離剤「スケルトンシリーズ」</b> 本技術は塗膜除去工において、たれづらく、人・環境に優しい塗膜剥離剤の技術であり、従来は、塗膜剥離剤(高級アルコール系)で対応していた。本技術の活用により、経済性と安全性の向上、環境へ負荷軽減、作業時の剥離剤のタレを顕著に抑止できるため施工性が向上する。	■						○	-	-	○	1件		1件	KK-210046-A			
168	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>溶融亜鉛めっきと防錆塗膜による複合表面処理技術「ディスゴルナ処理」</b> 本技術は溶融亜鉛めっき JIS H 8641 HDZ35 上に高機能な防錆塗膜を塗布した、めっきと塗膜の複合表面処理技術であり、従来は溶融亜鉛めっきであった。本技術の活用により、長期耐候性向上による品質向上が期待できる。	■						△	△	○	-	0件			KK-210069-A			
169	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>塩害対策用高遮断形下塗り塗料「タイエンダー下塗り」</b> 本技術は、防食塗装仕様として重要な性能である環境遮断性に特化した塗膜を形成し、特に腐食の著しいとされる塩害環境下において極めて優れた耐久性を示す下塗り塗料。本技術を適用することにより、高耐久かつライフサイクルコスト低減が可能となる。	■						○	○	○	○	6件		6件	CG-210013-A			
170	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>塗料に代わる省工程(1日)重防食シート工法「メタモルシートシリーズ(貼る重防食シート)」</b> 本技術は亜鉛末を配合した粘着シートを「貼る」ことで重防食塗装と同等の防食性を付与することが可能な材料です。従来は塗膜作業(重防食塗装)は多くの工程・時間を必要としていたが、本技術を活用することで作業の簡素化、省力化、工程工期短縮が期待できる。	■						○	○	○	○	7件	2件	5件	SK-210003-A			
171	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>鋼コンクリート合成壁高欄において側鋼板とコンクリート界面からの浸入水を防ぐシール材「ブリッチェール」</b> 本技術は、鋼コンクリート合成壁高欄に関する技術である。側鋼板内側に反応接着型止水材を貼付けてコンクリート打設することで、界面からの浸入水を防ぐ技術で、従来は、水膨張性ゴムの設置で対応していた。本技術の活用により、確実な止水が可能となる。	■						○	-	-	-	0件			QS-210053-A			
172	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>長期耐候性 錆転換防食塗装システム「DeCK」</b> 本技術は、鋼構造物の塗替え塗装に関する技術である。専用のエポキシ樹脂プライマーにより発錆リスクである赤錆を黒錆に転換し防食することができ、さらに超厚膜形ふっ素樹脂塗料を塗り重ねることで、長期耐候性も期待できる為、ライフサイクルコストの縮減が可能である。	■						△	○	○	○	1件		1件	QS-210056-A			
173	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>全研削材・全工法対応型プラストシステム(マルチメディア・プラスト工法)</b> 本技術はプラストに関する技術である。現場にてエア(オープン)プラストとバキュームプラストを適材適所で打ち分けること、バキューム装置を併せ活用してエア(オープン)プラストによる施工でも研削材の回収、非金属系に加え金属系研削材の使用などを可能とした。	■							○	-	-	○	0件			QS-210066-A		
174	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>ハンドミストジェット工法</b> 本技術は、ウォータージェット技術を応用してコンクリート・鋼構造物の旧塗膜及び錆等の除去を行う技術であり、従来はサンダーケレンで対応していた。本技術の活用により、周辺環境への影響を抑制でき、機械化による施工品質の向上が図れる。	■							△	○	○	○	0件			KT-220012-A		
175	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>高耐候性タッチアップ用シール材(RACタッチ)</b> 本技術は、鋼構造物部分補修用の耐候性フッ素樹脂フィルムと特殊粘着剤の一体化シールで、従来は塗替え塗装で対応していた。本技術の活用により、シールを貼付するだけで施工が完了するため、施工費が低減し経済性の向上と工程短縮が図れる。	■						○	○	-	○	1件		1件	KT-220027-A			
176	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>ルビゴールシステム</b> 本技術は鋼道路橋・一般外面の塗替えにおいてRC-I 塗装系素地調整が出来ない箇所等に適用可能な塗装工法の技術であり、従来はRC-I 塗装系であった。本技術の活用により工数削減による施工性、LCCの向上、工程短縮、水性塗料使用による作業員・地球環境の影響抑制期待できる	■						○	○	-	○	0件			KK-220040-A			
177	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>アクアシールドスプレー</b> 本技術は、水系さび止め塗料をエアゾール化した水系防錆スプレーで、従来は刷毛塗りに対応していた。本技術の活用により塗膜準備(計量、攪拌作業、刷毛洗浄作業等)が省略でき、塗装作業も容易となるため、施工性の向上が図れる。	■						○	○	-	○	6件		6件	KT-220041-A			

No.	分類項目	小分類項目	技術名称	新技術開発システム (NETIS)										性能カタログ※1					
				掲載 ※NETISサイ トに移動しま す	NETIS (有用な新技術) ※2				従来技術との比較※3 (※技術開発者の申請情報)				NETISの 活用効果調査件数※4		NETIS登録番号	掲載 ※性能カタ ログページ に移動します	技術の 性能確認 シート	性能カタログ番号	
					推奨技術	準推 奨技術	評価 促進技術	活用 促進技術	経済性	工程	品質	施工性	全体	中国地整					他地整
178	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>ロック水系ハクリ工法</b> 本技術は、橋梁などの鋼構造物の既存塗膜をロックリムーバーAQを使用して剥離する湿式剥離工法で、従来は乾式プラスト工法で対応していた。本技術の活用により、粉塵抑制や有害物質の飛散抑制、研削材の産業廃棄物の発生抑制が図れる。	■						○	○	△	○	1件	1件		KT-220082-A		
179	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>M-CSCシステム</b> 本技術は、鋼構造物の塗替え塗装における防錆塗装技術で、従来は主に、ジンクリッチペイントで対応していた。本技術の活用により、劣化因子である塩化物イオンを吸着・固定し、塗膜の再劣化を防止できるため、塗膜の長期防錆性(品質)の向上が図れる。	■						○	○	○	-	0件			KT-220111-A		
180	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>特化則、有機則に抵触しない水性防錆スプレー (水性サビナー)</b> 本技術は、労働安全衛生法の特化則、有機則に抵触しない水性塗料をエアゾール化したスプレーで、従来は、有機溶剤防錆スプレーで対応していた。本技術の活用により、使用が制限されていた閉鎖空間で活用でき、作業員や周辺環境への影響も少なく、安全に防錆工が可能になる。	■						○	○	-	○	0件			KT-220177-A		
181	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>ソルティガードシステム工法</b> 本技術は、特殊な変性エポキシ樹脂下塗料と耐塩害用厚膜系ふっ素樹脂上塗料を組合せた塩害対策塗工法で、従来は塗替塗装(Rc-1系)で対応していた。本技術の活用により、3層でも1層の施工で40年以上の長期耐久性を確保することが可能となるため、品質の向上が図れる。	■						△	○	○	-	0件			KT-220199-A		
182	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>塩分除去洗浄による戻り錆び対策工法</b> 本技術は、鋼表面の付着残存塩分を高圧水洗浄で除去する時に発生する戻り錆びを抑制する工法であり、従来技術は錆び清掃用乾式2次プラスト工法で対応する。本技術の活用により気化水溶性防錆剤を希釈添加した水洗浄が2次プラスト工程を省略し、品質確保が期待できる。	■						○	○	-	-	1件	1件		CB-220006-A		
183	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>FAITH21 ADVANCE (防錆水性コート材)</b> 本技術は、炭素繊維を含有した無機系防錆プライマーによる防錆塗装で、従来はエポキシ樹脂系塗料等による防錆塗装で対応していた。本技術の活用により鋼構造物の防錆および鉄筋コンクリート構造物等の防水等に優れた効果を発揮するため、耐久性の向上が図れる。	■						○	○	○	○	0件			CB-220015-A		
184	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>クリスタルジュエリー工法</b> 本技術は、耐塩害性に優れた防食処理をする工法であり、従来技術は支承金属溶射工で対応していた。本技術の活用により支保、添接部、隙間等の鋼材防錆処理の他に、ゴムのオゾン劣化抑制やコンクリートの中性化予防が可能であり経済性、施工性、品質、可視化等が向上する。	■						○	○	○	○	1件	1件		CB-220023-A		
185	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>循環式オープンプラスト工法</b> 本技術は、高圧縮空気(1.0Mpa)で運転し、研削材の循環再利用を可能としたプラスト工法であり、従来技術は一般的なプラスト工法であった。本技術活用により遠距離施工が可能で、研削材の循環再利用する事で産業廃棄物発生量の削減ができ、経済性及び工期短縮が期待できる。	■						○	○	-	○	0件			CB-220034-A		
186	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>セレクトコートさび鉄構造物リニューアル工法</b> 本技術は赤錆を黒錆転換・不動態被膜化し、化学的な除錆と防錆を行う技術であり、層状等の浮きサビのみを除錆処理する簡易な素地調整で塗替塗装等が可能。従来はプラスト等で錆を完全除去していたが、本技術の活用により所要防錆性確保の低コスト化、工期短縮が期待できる。	■						○	○	○	○	4件	4件		SK-220006-A		
187	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>湿乾併用プラストによる「ウェット&amp;ドライプラスト工法」</b> 本技術はプラストに関する技術である。湿式プラストにより作業中の粉塵を抑制し、施工後の戻り錆は仕上げとして乾式プラストを行う。これらを資機材を変更することなく1台で実現する。また、本工法は、剥離剤等の補助工法を使用することなく有害物質含有塗膜を除去できる。	■						○	○	-	○	1件	1件		QS-220004-A		
188	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>スピーカー内蔵型 電動ファン付き 防じん防汚マスク</b> 本技術は電動ファン付きマスクにスピーカーを内蔵し騒音下での会話のしにくさを解消する技術で従来は電動ファン付きマスクで対応していた。本技術の活用により作業場内で会話をするためにマスクをはずし有害物質に暴露するリスクを回避できるため安全性の向上が図れる。	■						△	-	-	○	2件	2件		KT-230025-A		
189	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>循環式プラスト工法</b> 耐摩耗性及び靱性の高い研削材を使用し、同材の循環再利用可能なプラスト技術。従来の非循環型エアプラスト工法と比べ、本技術は耐摩耗性等の向上により研削材が破損しにくくなると同時に、鋼材表面に突き刺さりのない塗膜形成が可能となり、錆の発生防止が図れる。	■						○	○	-	-	8件	8件		KT-230028-A		
190	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>水系中性剥離剤による湿式塗膜剥離回収工法「PSリムーバー工法」</b> 水系中性剥離剤のシャワー状の連続吹付、高圧洗浄及び洗浄水回収システムの採用により、既存塗膜の回収を行う工法。従来は刷毛やローラー工具を使用して水系酸性剥離剤を塗布する剥離工法と比較して鋼材形状に制約されにくく、塗膜除去作業の効率化、安全性の向上が図れる。	■						○	○	-	○	0件			KT-230075-A		
191	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>自動化防水塗装工法</b> 本技術は、高架橋壁高欄(コンクリート、鋼板)にSQS防水材(中塗り)に「STスインガー」によって塗布する技術で、従来は、手塗り作業で対応していた。本技術の活用により、自動化施工のため工程が短縮でき、交通規制も短縮されるため周辺環境への影響が抑制できる。	■						△	○	○	○	0件			KT-230129-A		
192	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>鋼構造物用水性無機塗料「パラディウム工法」</b> 本技術は、揮発性の少ない水性無機塗料を使用した鋼構造物の塗装工法である。従来は、揮発性の高い溶剤系有機塗料(Rc-1塗料系)で行っていた。本技術の活用により、VOCが削減されるため、作業員環境と安全性の向上が図れる。	■						△	○	○	○	0件			KT-230318-A		
193	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>コンクリートの塩害状況迅速診断システム</b> 本技術は、自動試料微粉砕装置と蛍光X線分析法を組み合わせた、コンクリートの塩害状況診断システムである。従来は、手動粉砕と電位差測定法で対応していた。本技術の活用により、試料粉砕と塩化物イオン濃度測定時間が短縮できるため、施工性の向上と工程の短縮が図れる。	■						○	○	-	○	0件			KT-230335-A		
194	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>ハイブリッドAIMg溶射工法</b> 本技術はAIMg溶射を用いた重防食工法であり、従来はRc-I(+増塗り)塗替塗装工法で対応していた。従来技術は1種ケレン素地調整が必須であったが、高浸透型封孔処理剤の採用により、2種ケレンでも重防食が可能になり、工程短縮、コスト削減に繋がった。	■						○	○	○	○	0件			HR-230005-A		
195	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>エコクリーン超耐摩耗吸引ホース</b> 本技術は、循環式プラスト工法で使用する吸引用ホースであり、従来技術は、鋼芯入り吸引ホースで対応していた。本技術の活用により、耐摩耗性が向上しホース破損による塗膜クズの飛散事故発生リスクが減少し、安全性と周辺環境が向上することが期待される。	■						○	-	-	○	0件			CB-230002-A		
196	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>環境配慮型塗膜剥離剤「ペイントール」</b> 本技術は、鋼構造物の既存塗膜を湿潤膨潤させ剥離する技術である。従来は、高級アルコール系剥離剤で対応していた。本技術は、安全性が高く健康被害を抑えることができるため、環境負荷軽減による地球環境への影響抑制、施工性の向上が期待できる。	■						○	-	-	○	0件			KK-230004-A		
197	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>タイタンコート防錆塗装工法</b> 本技術は鋼構造物の塗替えにおいて発錆を抑制する防食工法であり、従来はRc-1塗料系で対応していた。本技術の活用により、錆転換機能を持つ防錆層および無機成分の厚膜の保護層で再腐食を抑え、重塩害環境においてもコストを抑えながら鋼構造物の長寿命化が図れる。	■						○	○	○	○	0件			KK-230037-A		
198	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>ソルトリッパー</b> 本技術は、鋼構造物における素地調整後の鋼材に残存する塩分について、塗布型可削材材により行う技術で、従来は水洗いで対応していた。本技術の活用により、廃水の発生を抑制できることから、周辺環境への影響抑制が図れる。	■						△	△	○	○	0件			KK-230044-A		
199	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>リユースプラスト工法</b> 本技術は、高圧圧縮空気(圧力:約1.5MPa)を使用することで、従来は約0.7MPaの圧縮空気を使用することで対応していた。本技術の活用により、遠距離の施工や研削材使用量の削減、回収した研削材と塗膜カスを分離し、研削材が再利用でき、リサイクル性の向上が図れる。	■						△	○	-	○	0件			KK-230076-A		
200	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>コンクリート接触面表面調整剤「CSサンド」</b> 本技術は、コンクリートと接触する鋼材面へ適用してコンクリートを打設することで、鋼材とコンクリートの付着力を向上させ、劣化因子の侵入・滞留を抑制して鋼材の防錆効果が向上する。本技術の活用により、複合構造物の耐久性向上が期待できる。	■						○	○	○	○	0件			CG-230007-A		
201	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>サビシャットスプレー</b> 本技術はさび層中の水分を除去し、腐食性イオンを無害化する技術で、4種ケレン(清掃ケレン)とスプレー式の塗付作業での施工が可能である。従来はスプレー式の簡易補修用防錆スプレーと比較し、高い防錆効果が期待できる。	■						○	○	○	○	0件			CG-230013-A		
202	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>透明ボルトキャップ (シェルボンズ)</b> 誰でも簡単に設置できる鋼橋の高力ボルト用防錆キャップで、落下時のフェイルセーフとして連結ワイヤーでキャップ同士をつなげている。従来はキャップは樹脂接着のため施工に時間がかかっていたが、本技術の活用により特殊作業の削減、キャップ落下の危険性低減が期待できる。	■						○	○	-	○	1件	1件		SK-230003-A		
203	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>パワー防錆NKRN-66</b> 本材料は、鋼構造物の補修に用いる、密着成分を超微粒子に改良した変性エポキシ樹脂防錆補修剤である。従来は、鋼板の当て板を溶接と塗装により行っていた。本技術の活用することにより、溶接作業が不要となるため、工程の短縮及び経済性が図れる。	■						○	○	-	-	0件			KT-240025-A		
204	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>複合型ケイ酸塩系鉄筋防錆材「リフレ防錆コートZn」</b> 本技術は鋼材に用いる防錆材であり、従来技術は亜硝酸リチウム+モルタルの組み合わせで対応していた。本技術の活用により、施工期間の短縮や省力化および防錆効果の向上が期待できる。	■						○	○	○	○	0件			CB-240020-A		
205	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>透明防錆ボルトキャップ「BBCAP」</b> 本技術は、シリコン製の透明防錆ボルトキャップであり、従来は有色塩化ビニルキャップで対応していた。本技術の活用により、経年劣化が起きにくく、点検時にキャップを取らずに内部のボルトの緩みや腐食が見えるため、点検施工性が向上する。	■						△	○	○	○	0件			KK-240036-A		
206	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>クリーンプラスターバキュームプラスト工法</b> 本技術は、吸引回収した粉じんを複数のフィルターで捕集するバキュームプラスト工法であり、従来は1種ケレン(プラスト工法)で対応していた。本技術の活用により、吸引回収された粉じんが複数のフィルターにより清浄化し排気されるため、作業環境の向上が期待される。	■						○	△	-	-	0件			KK-240052-A		
207	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>塗膜除去養生用「EMシート」</b> 本技術は、鋼構造物の塗膜補修維持工事を行う際に塗膜面に取り付けて粉塵拡散を防止する養生シートで、従来は作業をする周囲のシート養生等と保護具の着用で対応していた。本技術により周囲のシート養生等、保護具の着用が不要となり、経済性、工程、施工性の向上が図れる。	■						○	○	-	○	0件			KK-240074-A		
208	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>補強布を用いないFRP防食工法</b> 本技術はローラー・刷毛・コテ等で塗装することで、防食被膜を形成するコンクリート構造物の防食被覆工法で、従来技術で必要とされたガラスマットの裁断、割付、含浸脱泡工程を省略することが出来る。本技術の活用により、作業性の向上、コストの低減が期待できる。	■						○	○	-	○	0件			KK-240076-A		

No.	分類項目	小分類項目	技術名称	新技術開発システム (NETIS)											性能カタログ※1						
				掲載 ※NETISサイトに 移動します	NETIS (有用な新技術) ※2				従来技術との比較※3 (※技術開発者の申請情報)				NETISの 活用効果調査件数※4			NETIS登録番号	掲載 ※性能カ タログ ページ に移動 します	技術の 性能確 認シ ート	性能カ タログ 番号		
					推奨技術	準推 奨技術	評価 促進技術	活用 促進技術	経済性	工程	品質	施工性	全体	中国地整	他地整						
209	措置 (新工法・ 新材料)	防食対策	<b>植物系研削材によるプラスト「ボタニカルプラスト工法」</b> 本技術は塗替塗装の素地調整（ケレン）に関する技術である。従来は動力工具等を用いて施工していたが、硬度の低い、植物系研削材を使用したプラスト施工としたことで、健全な塗膜（上塗・下塗）を残しつつ脆弱で付着していない層のみを効率よく塗膜除去できる工法である。	■						△	○	-	○	0件			QS-240004-A				
210	措置 (新工法・ 新材料)	塗装	<b>マグネシウム含有亜鉛末塗料「マザックス」</b> 本技術は、鉄鋼材及び溶融亜鉛めっき鋼材を対象とした高耐食性めっき対応亜鉛末塗料で、従来は亜鉛アルミ系亜鉛末塗料で対応していた。本技術の活用により、高耐食性めっきと同配合となり耐食性の向上と薄膜での施工が可能となるため、施工性の向上が図れる。	■						○	○	○	○	4件	3件	1件	KT-170072-A				
211	措置 (新工法・ 新材料)	塗装	<b>ソルトレスクリヤー</b> 本技術は、撥水性を高めたふっ素樹脂クリヤー塗料で、様々な塗装仕様の最上面にオーバーコートして使用する。本技術の活用により、塗装表面に撥水性が付加されて、飛来による部材表面への塩分の付着・堆積の抑制や、降雨による塩分洗浄効果をより一層発揮します。	■						○	○	○	-	17件	2件	15件	CB-170015-VR				
212	措置 (新工法・ 新材料)	塗装	<b>1液水性速乾性厚塗り高耐食塗料(SWTマジックペイント)</b> 本技術は、鋼構造物の防錆・防食・塩害防止とコンクリートの劣化防止・塩害防止を併せ持つ1液型水性表面被覆材で、従来は外面塗替塗装RC-1塗装系仕様で対応していた。本技術の活用により、高粘度による厚膜塗装と速乾性効果で施工性、経済性の向上と工程の短縮が図れる。	■						○	○	-	○	0件			KT-200008-A				
213	措置 (新工法・ 新材料)	塗装	<b>VTC機能搭載回転駆動自動制御型電動ブラシ工具「BBアルティメット」</b> 本技術は、素地調整用電動ブラシ工具に、回転駆動自動制御が出来る技術で、従来は、通常の素地調整用電動ブラシ工具を用いていた。本技術の活用により、ブラシを押し当てても回転数低下を抑える事により安定したケレン作業が可能になり、施工性の向上が図れる。	■						△	-	-	○	0件			KT-230310-A				
214	措置 (新工法・ 新材料)	その他 (プラスト)	<b>エコクリーンケールスーツ</b> 本技術は、夏季の密閉された足場内で有害塗膜除去のプラスト作業時に使用する熱中症対策の装備として、又特定粉じん作業における有効な呼吸用保護具(送気マスク)として使用できる。従来は、化学防護服と電動ファン付呼吸用保護具を着用の為熱中症になる危険性があった。	■		○ R5				○	○	-	-	21件		21件	CB-190009-VE				
215	措置 (新工法・ 新材料)	その他 (プラスト)	<b>エコクリーンプラストシート</b> 本技術は、高い耐久性と柔軟性を兼ね備えたプラスト用養生シートです。従来は防炎シートで対応していましたが、本技術を活用することにより、従来のような破損に伴う補修・交換が不要になり、また脱脱しやすさも加わり、作業効率と安全性が格段に向上します。	■						○ R4	○	○	○	○	25件		25件	CB-190023-VE			
216	措置 (新工法・ 新材料)	その他 (プラスト)	<b>ダブルプラスト</b> 湿潤プラストによる塗膜除去と乾式プラストによる除錆を組み合わせた工法。鉛など有害物質を含む塗膜も安全確実に除去でき、鋼道橋防食便覧の品質規格を満たす。設備1台で施工可能で、従来の剥離剤を主体とした塗膜除去よりも高品質・低コストで実施できる。	■						○	○	○	○	1件		1件	SK-200008-A				
217	措置 (新工法・ 新材料)	その他 (プラスト)	<b>ツインノズルのリサイクルプラスト工法</b> 本技術は、ツインノズルのリサイクルプラスト工法で、従来は、シングルノズルで対応していた。本技術の活用により、施工速度が速くなり、施工性の向上が図れる。	■						○	○	-	○	0件			KT-230009-A				
218	措置 (新工法・ 新材料)	その他 (プラスト)	<b>プラスト面形成動力工具「Blastriker® (プラストライカー)」</b> 本技術は、作業面に鋭利なブレードを打ち付けることで素地調整（1種ケレン）を行うハンディ動力工具で、従来は、プラスト工法で対応していた。本技術の活用により、産業廃棄物の排出が錆と旧塗膜のみとなるため、地球環境への影響抑制および経済性の向上が図れる。	■						○	△	-	○	2件	2件	KK-230052-A					
219	措置 (新工法・ 新材料)	その他 (プラスト)	<b>循環式サステナブルプラスト工法</b> 本技術は橋梁補修工事における鋼構造の素地調整(1種ケレン)で研削材を現場で循環再利用するプラスト工法で、従来はサンドプラスト工法で対応していた。本技術の活用により研削材の循環再利用が可能で廃棄物の発生を低減できるため、周辺環境への影響抑制が図れる。	■						○	○	-	-	0件			TH-240002-A				
220	措置 (新工法・ 新材料)	支承取替	<b>密閉ゴム型コンパクト可動固定支承(HPB)</b> 本技術は密閉ゴム型コンパクト可動固定支承によって既存支承と比較して支承高さを低減させる製品で、従来は密閉ゴム支承板で対応していた。本技術の活用により、橋梁用支承がコンパクトになることで、施工性が向上することに加え、経済性の向上が期待できる。	■						○	△	-	○	0件			KT-170046-A				
221	措置 (新工法・ 新材料)	支承取替	<b>バルーンジャッキ(SBJ・KBJ)</b> 本技術は、円形の鋼板を張り合わせたシンプルな構造でかつ極めて薄い形状のジャッキであり、従来は油圧式の土木工用ジャッキで対応していた。本技術の活用により、仮設ブラケットなどの仮設材の設置が不要となるので、経済性の向上と工程の短縮が図れる。	■						○	○	-	○	0件			KT-180032-A				
222	措置 (新工法・ 新材料)	支承取替	<b>アンカー削孔中心表示治具</b> アンカー削孔所にターゲット治具を挿入することで、正確な削孔中心にターゲットを設置することができる技術で、削孔箇所に設置したターゲット取付け治具をカメラ撮影することで、3次元モデルによる出来形寸法の計測ができ、品質の向上が期待できる。	■						○	○	-	○	2件		2件	QS-180029-A				
223	措置 (新工法・ 新材料)	支承取替	<b>ベタルファスター</b> 本製品はボルトナットの緩み脱落を防止する金具である。従来はフリクションリング内蔵型ナットで対応していた。本製品を活用することにより維持管理が軽減され、品質及び経済性が向上する。	■						○	○	○	○	5件		5件	QS-180030-VE				
224	措置 (新工法・ 新材料)	支承取替	<b>MELめっき式、金物付積層ゴム支承</b> 本技術は、高強度ボルトにも適用できる高耐食表面処理を施した金物付ゴム支承を提供する工法で、従来は、金物付積層ゴム支承(溶融亜鉛めっき処理)で対応していた。本技術の活用により、金物付積層ゴム支承の鋼材重量が減少し、経済性、省資源、施工性の向上が図れる。	■						○	-	○	○	0件			KT-190103-A				
225	措置 (新工法・ 新材料)	支承取替	<b>高性能型高減衰ゴム支承「HDR-X」</b> 本技術は、特殊ゴム材料を使用し減衰性能を大幅に向上させた免震支承で、従来は、超高減衰ゴム支承「HDR-S」で対応していた。本技術の活用により、支承部の地震時応答を低減し、コスト削減が期待できる。	■						○	○	○	-	1件		1件	CB-210011-A				
226	措置 (新工法・ 新材料)	支承取替	<b>遠隔監視が可能な液体圧力モニタリングシステムによる圧力管理工法「エキアツミエルカ」</b> 本技術は最大50台の圧力センサデバイスで計測した圧力データをWEBページ上で一括管理する技術である。従来はアナログ式圧力センサを目視確認していたが、本技術の活用により、圧力センサ設置位置に立ち入ることなくデータを取得できる為、省力化が図れる。	■						△	-	-	○	1件		1件	TH-220004-A				
227	措置 (新工法・ 新材料)	支承取替	<b>遮塩性向上型無収縮モルタル「プレユーロックAS」</b> 本技術は、アルミノシリケート混和材配合により、遮塩性が向上した無収縮モルタルで、従来は汎用的な無収縮モルタルで対応していた。本技術の活用により、組織を緻密化でき、塩分や水分の浸透の抑制が可能となるため、品質（耐久性）の向上が図れる。	■						△	-	○	-	0件			KK-230051-A				
228	措置 (新工法・ 新材料)	支承取替	<b>支承管理情報提供システム「インテリジェント支承」</b> 本技術は、スマートフォン等でアルミ製QRタグを読み取ることで橋梁支承部の管理情報の閲覧が可能なシステムである。従来は、支承図面や過去の点検調査資料等を持参し確認していた。本技術の活用により、確認すべき点検調査の取違いを防げるため施工性の向上が図られる。	■						△	△	-	○	0件			KT-240072-A				
229	措置 (新工法・ 新材料)	グラウンドアンカー	<b>エポキシ樹脂で被覆したPC鋼より線を用いた金属製グラウンドアンカー</b> 本技術は、アンカー体をスチールで補強するとともに、耐食性材料のみで構成したグラウンドアンカーであり、従来は二重防食複合PC鋼より線東アンカーを用いていた。本技術の活用によりアンカーの耐久性が向上し、維持管理を含めたトータルコストの低減が期待できる。	■						○	○	○	○	0件			OK-170003-A				
230	措置 (新工法・ 新材料)	グラウンドアンカー	<b>積層型再定着工法</b> 本技術は緊張余長の短いグラウンドアンカーの再定着工法で、従来は再定着工法で対応していた。本技術の活用により孔壁の拡孔及び受圧板の取替えを行わずに、再定着が可能になったことにより、工程が短縮でき、かつ費用削減(経済性の向上)が図れる。	■						○	○	○	○	0件			KT-190102-A				
231	措置 (新工法・ 新材料)	グラウンドアンカー	<b>ロード・リリナー</b> 本技術は緊張余長が短い、過緊張、腐食の著しいナット定着式グラウンドアンカーを安全に除荷できる技術で、従来はナットを人力破砕し除荷していた。本技術の活用により作業効率が向上し、コスト削減及び工程の短縮が図れ、アンカーテンションを傷つけず除荷が可能となる。	■						○	○	○	○	0件			KT-200007-A				
232	措置 (新工法・ 新材料)	グラウンドアンカー	<b>EHDアンカーHP工法</b> 本技術はグラウンドアンカー工法で、従来は頭部充填グリースと背面止水構造のVSLアンカー工法で対応したが、アンカー頭部で新規に透明キャップ・グリースレス定着具・プレート止水構造を採用した。本技術の活用により経済性、安全性、品質性、環境性の向上が期待できる。	■						○	○	○	○	0件			HK-230017-A				
233	措置 (新工法・ 新材料)	グラウンドアンカー	<b>無線遠隔操作式ドリルロッド着脱機</b> 本技術はボーリング作業時のロッドの着脱を無線遠隔操作により可能とする技術で、従来は人力作業で行っていた。本技術の活用によりロッドの着脱を人の手を介さずにロッドハンドリングシステム(以下「RHS」)を使用することで安全に作業ができるため安全性が向上する。	■						△	-	-	-	0件			KT-230018-A				
234	措置 (新工法・ 新材料)	地覆補修	<b>ウォータージェットはつり処理工法(ジェットマスター JMK-2100)</b> 本技術は超高压水によりコンクリート床版のはつり作業を行う工法です。人力では保持が不可能であった、大量の超高压水を機械に保持させ自動制御させることで、施工箇所に対し安定的、均一に噴射します。ウォータージェット工法の安全性と品質の向上に貢献します。	■		○ R6				○ R5	○	○	○	11件	1件	10件	CB-180013-VE				

No.	分類項目	小分類項目	技術名称	新技術開発システム (NETIS)											性能カタログ※1				
				掲載 ※NETISサイ トに移動しま す	NETIS (有用な新技術) ※2				従来技術との比較※3 (※技術開発者の申請情報)				NETISの 活用効果調査件数※4			NETIS登録番号	掲載 ※性能カタ ログページ に移動します	技術の 性能確認 シート	性能カタログ番号
					推奨技術	準推 奨技術	評価 促進技術	活用 促進技術	経済性	工程	品質	施工性	全体	中国地整	他地整				
235	措置 (新工法・ 新材料)	地覆補修	<b>橋梁用FRP水切り板</b> 橋梁の地覆や床版の下面及び側面からの桁、支承への伝い水を防止する製品。凍結防止剤等に対する腐食の懸念が無いFRPを使用した水切り板である。コンクリートアンカーとシーリングでの施工の為、現場の凹凸にも柔軟に対応可能な製品である。	■						△	-	○	○	3件	1件	2件	CG-190023-A		
236	措置 (新工法・ 新材料)	地覆補修	<b>コンクリート製壁高欄における塩化物イオンの吸い上げ低減工法</b> 本技術は、RC壁高欄の塩害対策に関する技術である。高欄内側下部に設けた切欠+軟質ゴム充填により塩化物イオンの吸い上げを低減する技術で、従来は、表面含浸材塗布工法で対応していた。本技術の活用により、より確実な劣化因子の侵入抑制が可能となる。	■						△	△	○	△	0件			QS-210036-A		
237	措置 (新工法・ 新材料)	地覆補修	<b>ブリッジプラスチック連続タイプを用いた橋梁拡幅工法</b> 本技術は既設橋梁を連続構造の鋼製地覆で道路拡幅をする技術である。従来は鉄筋コンクリート製地覆で対応していた。本技術の活用により、衝突荷重を分散しつつ死荷重を軽減でき、また工場製作の地覆ユニットの現場設置が可能となり、品質・施工性の向上と工期短縮が図れる。	■						△	○	○	○	0件			KT-230106-A		
238	措置 (新工法・ 新材料)	地覆補修	<b>M&amp;Nコイル</b> 本技術は、鉄筋の周囲に補助鋼線を螺旋状に配置することで鉄筋コンクリートを補強する技術で、従来は異形鉄筋のみで対応していた。本技術の活用で、コンクリートの初期剛性等の強度増加による品質の向上、大きなひび割れが抑制されることによる安全性の向上が期待できる。	■						△	-	○	-	0件			HK-240008-A		
239	措置 (新工法・ 新材料)	地覆補修	<b>ウォータージェットはつり工法</b> 本技術は、油圧シノベルにウォータージェット(WJ)装置と制御装置を搭載したWJ切削機を用いるはつり工法であり、従来はウォータージェットハンドガンで対応していた。本技術の活用により、労務費の削減等が可能となるため、経済性および安全性の向上が期待される。	■						○	○	-	△	0件			KK-240056-A		
240	措置 (新工法・ 新材料)	RC巻立て 鋼板巻立て	<b>吸塵ドリルシステム Qビット UX</b> 本技術は、発生する粉塵を吸いながらコンクリート母材を穿孔する技術で、従来は孔の外に粉塵を排出するドリルで対応していた。本技術の活用により、作業員の健康被害抑制を含む環境改善や、孔内清掃の簡略化、し忘れ防止による作業効率、品質の向上が図れる。	■						△	○	○	○	34件	1件	33件	KT-150089-VE		
241	措置 (新工法・ 新材料)	RC巻立て	<b>ComBAR(GFRP補強筋)</b> ガラス繊維を樹脂で異形鋼棒状に成形した材料である。軽量、高強度で、導電性・磁性が無く、切削加工性に優れたコンクリート補強材である。特に鉄筋の腐食が懸念される塩害地域等における構造物に用いる事でより耐久性の向上、LCCの削減が可能となる。	■						△	○	○	○	0件			QS-180036-A		
242	措置 (新工法・ 新材料)	鋼板巻立て	<b>スマート制御付きトランス[ダイモトランスプレミアム]</b> コアドリル、磁石切断機、電動カッターなどの電源スイッチを投入した際、モータがゆっくり回転を始めるソフトスタート機能と、不用意に強い押圧をかけたときランプが点滅し、さらにモータ回転数が低下することで作業者に押圧低減を促す電流制御機能を有するトランス	■						○	-	-	○	6件	1件	5件	CG-190001-VE		
243	措置 (新工法・ 新材料)	RC巻立て	<b>循環式壁面プラストロボット</b> 本技術は、既設コンクリートの表面処理ロボットで、従来はウォータージェット工で対応していた。本技術の活用により、プラストにより表面の均一化が図れ、また、昇降速度により表面粗度が調整できるため付着強度も調整でき、品質の向上が図れる。	■						△	△	○	○	0件			KT-230024-A		
244	措置 (新工法・ 新材料)	RC巻立て	<b>任意深度定着型仮締切り工法「D-flip工法」</b> 本技術は、橋脚外周にライナープレートを組立て、任意深度でドライな作業空間を構築できる工法で、従来は鋼矢板による仮締切工法で対応していた。本技術の活用により、仮締切り設備が小規模化され、省力化となるため、施工性の向上が図れる。	■						○	○	-	○	0件			HR-230011-A		
245	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>SEFジョイント100</b> 本技術は耐疲労鋼を採用し、構成部材数を少なくし、コンクリートの充填性に優れ、小分割施工を可能とした道路橋用伸縮装置であり、従来は鋼製フィンガージョイントで対応していた。本技術の活用により、耐久性、施工性、経済性の向上が期待できる。	■						○	○	○	○	9件		9件	KK-140024-VE		
246	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>メタルジョイント KC-A、YC-A</b> 本技術は、止水性・耐久性に優れた橋梁用伸縮装置で、従来は鋼製フィンガージョイントで対応していた。本技術の活用により、専用の接続方法により止水性が向上。また、部材見直しにより耐久性が向上。これにより本体をコンパクトにでき経済性、施工性の向上が図れる。	■					○ R3	○	○	○	○	15件	2件	13件	KT-170035-VE		
247	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>伸縮装置及び床版防水の一体化工法(ARCHIST ONEPIECE-GEL SYSTEM工法)</b> 本工法は、同じアスファルト乳剤系の伸縮材と防水材を使用することで伸縮装置設置工と塗膜系床版防水工の工期短縮と品質の向上を実現し、橋梁に伸縮装置機能と防水機能を保持させる工法です。	■					○ R4	○	○	-	○	7件		7件	CB-170021-VE		
248	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>フィンガーフレックスジョイント</b> 本技術はユニット化と乾式止水材を採用し、止水材の耐久性を向上・製品高さを減少させた橋梁用伸縮装置で、従来は弾性シール材を用いた鋼製フィンガージョイントで対応していた。本技術の活用により、経済性・耐久性の向上、施工時間の短縮が期待できる。	■						○	○	○	-	1件		1件	KT-180012-A		
249	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>ポリウレタン樹脂(ライノ・エクストリーム)を用いた道路橋・伸縮装置の防水補修工法</b> 本技術は、ポリウレタン樹脂を用いた道路橋・伸縮装置の防水補修工法で、従来は、弾性シーリング材充填工法等で対応していた。本技術の活用により、短時間でより耐久性に優れた防水塗膜を形成する事ができ、道路橋・伸縮装置の長寿命化が図れる。	■						○	○	○	○	5件		5件	KT-180064-A		
250	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>ゴム劣化取替工法</b> 橋梁用伸縮継手補修工事において、実用型ゴムジョイントなどの劣化した伸縮ゴムの部分を撤去し、新たに伸縮性に優れた樹脂材を充填する橋梁用伸縮継手補修工法で経済性・施工性の向上が期待できる。	■						○	○	-	○	6件		6件	QS-180049-A		
251	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>アルミ合金製伸縮装置(Axpan(アクスパン))</b> 本技術は、下面からのバックン取替と小分割施工を可能としたアルミ合金製の橋梁用伸縮装置で、従来は鋼製フィンガージョイントで対応していた。本技術を活用することにより、耐久性・施工性の向上が期待でき、ライフサイクルコストの削減を図ることができる。	■						○	○	○	○	1件		1件	CB-190019-A		
252	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>リフレッシュジョイント工法(REJ工法)</b> 橋梁用伸縮継手装置(ゴム系ジョイント)の補修について、狭小部でも素地調整可能なプラストとシーリングにより止水機能を回復させる工法で、従来は、3種クレタシーリングで対応していた。本技術の活用により、伸縮継手の錆を確実に除去できるため、品質が向上する。	■						△	○	○	○	8件	1件	7件	QS-190028-A		
253	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>スーパーリードジョイント・F型</b> 本技術は、橋梁用伸縮装置において簡素な方法で止水機能の回復を図る技術である。従来は止水ゴムの一部破損に対して橋梁用伸縮装置ごと交換していたが、本技術の活用により補修に関する経済性向上や橋梁自体の品質向上などが期待できる。	■						○	-	-	-	0件			HK-200007-A		
254	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>荷重分散型橋梁伸縮継手「ジョイント和」</b> 本技術は、橋梁伸縮継手装置設置工に関する技術である。従来は鋼製伸縮継手装置で対応していた。本技術は、荷重分散鋼板を設けることで既設床版に荷重を分散することで、耐荷重性能の向上と、ユニット化による施工の省力化が期待できる。	■						○	-	○	○	0件			QS-200045-A		
255	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>耐圧防水樹脂充填による橋梁伸縮装置の防水補修工法</b> 本技術は橋梁伸縮装置部からの漏水を耐圧防水樹脂「ジェラフィン」の充填で止水する工法である。従来は伸縮装置の取り替え等に対応していた。本技術は2液を混合充填するだけで止水が可能であり熟練工を必要とせず工程の短縮とコスト削減が期待できる。	■						○	○	-	○	2件		2件	HK-210010-A		
256	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>オートチップー工法</b> 高架道路伸縮継手の取り換えや床版の表面切削において、低騒音型コンクリート撤去装置を用いた工法。従来はブレードを使用した人力手はつり作業で対応していた。本技術の活用により、低騒音・低振動での施工が可能になるため、周辺環境への影響抑制が図れる。	■						△	-	○	○	0件			KT-210057-A		
257	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>道路橋用ハイブリッドジョイント3L II Aタイプ</b> 本技術は、止水材を接続容易なファスター式ジャバラ状ゴムシートに変更した道路橋用ハイブリッドジョイント3L II Aタイプで、従来は鋼製フィンガージョイントで対応していた。本技術の活用により作業範囲縮小、鋼重軽減、省力化等により経済性が向上し、工期の短縮が図れる。	■						○	○	○	○	0件			KT-210067-A		
258	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>ワンダーフレックス</b> 本技術は、橋梁用伸縮継手装置設置工において、大遊間700mmまで対応可能となった橋梁用ゴム製伸縮装置の製品技術であり、従来は荷重支持型伸縮装置で対応していた。本技術の活用により、経済性、施工性の向上、工程短縮、周辺環境への影響抑制が期待できる。	■						○	○	-	○	0件			KK-210042-A		
259	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>2層フィンガー止水材劣化抑制ジョイント(N-FCフィンガージョイント)</b> 本技術は、橋梁伸縮装置に関する技術である。2層のフィンガージョイントにより止水材を保護する技術で、従来は、一般的な鋼製フィンガージョイントで対応していた。本技術の活用により、非排水機能の要となる止水材を保護できるため橋梁桁端部の早期劣化を防止できる。	■						○	-	○	-	0件			QS-210007-A		
260	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>省スペース設置対応伸縮装置</b> 本技術は橋梁伸縮装置に関する技術である。省スペースでも設置可能な荷重支持型鋼製伸縮装置である。従来は目地材や荷重支持型ジョイント(ゴム+鋼製)で対応していた。本技術の活用により床版厚が薄い橋梁やバラベッド厚が狭い橋梁への設置が可能となる。	■						○	-	-	○	2件		2件	QS-210051-A		
261	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>KMSジョイント</b> 本技術は、橋梁用鋼製伸縮装置取替補修に、コンパクトな既製品ジョイントを設置する技術で、従来は鋼フィンガージョイントの設置で対応していた。本技術の活用により、箱根範囲のコンクリートの削り及び打設量が軽減し省力化がなされ経済性の向上及び工期短縮が図れます。	■						○	○	-	○	1件		1件	KT-220033-A		
262	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>ダブルディフェンスジョイント工法</b> 本技術は、伸縮装置において弾性目地と防護装置により防水部分に輪荷重がかからない工法技術であり、従来は埋設型伸縮装置であった。本技術の活用により、施工性の向上、経済性の向上、養生不要で交通開放が早くなり周辺環境への影響抑制が期待できる。	■						○	-	-	○	0件			KK-220006-A		
263	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>橋梁用伸縮装置「ハマハイウェイジョイントYHT・YFS型」</b> 本技術は、橋梁伸縮装置内面を全てゴム被覆し、止水ゴムを鋼材部とプレス熱加硫一体化することで鋼材の防食性を向上させた技術で、従来は塗料を内面に塗付し弾性シール材で止水をしていた。本技術の活用により鋼材と一体化した止水ゴムにより止水耐久性が向上する。	■						○	○	○	○	0件			KT-230188-A		
264	措置 (新工法・ 新材料)	伸縮装置	<b>ライトレックス</b> 橋梁伸縮装置の遊間部や伸縮目地等に適用する乾式タイプの止水材。劣化損傷した既設止水材を除去し、連続気泡止水フォームで構成された柔軟性の高い止水材を新たに設置することで、従来の弾性シール材を充填するよりも、適用遊間幅の拡大や施工費・産業廃棄物量の低減が図れる。	■						△	-	○	○	0件			KK-230035-A		

No.	分類項目	小分類項目	技術名称	新技術開発システム (NETIS)											性能カタログ※1					
				掲載 ※NETISサイ トに移動しま す	NETIS (有用な新技術) ※2				従来技術との比較※3 (※技術開発者の申請情報)				NETISの 活用効果調査件数※4			NETIS登録番号	掲載 ※性能カタ ログペー ジに移動 します	技術の 性能確認 シート	性能カタログ 番号	
					推奨技術	準推 奨技術	評価 促進技術	活用 促進技術	経済性	工程	品質	施工性	全体	中国地整	他地整					
265	措置 (新工法・ 新材料)	床版	<b>床版取替え用プレキャスト高耐久軽量合成床版「SLaT-FaB床版」</b> 本技術は、既設床版の取替に関する技術である。軽量かつ高耐久のPCa合成床版で、従来は、プレ キャストPC床版で対応していた。本技術の活用により、プレストレスが不要で分割取替が可能のため 急速施工が可能で、規制縮小となる。	■						○	○	-	○	0件			QS-200043-A			
266	措置 (新工法・ 新材料)	床版	<b>高耐久材料を用いた薄型・軽量な歩道床版「ESCON歩道床版」</b> 本技術はプレキャストコンクリート床版設置工に関する技術で、歩道橋の床版新設・更新に用いるRC 床版である。従来は鋼製デッキプレート床版を用いた。本技術の活用により高強度・高耐久で長寿命 化が図れ、薄型・軽量な、施工性の向上が期待できる。	■						△	○	○	○	0件			QS-210060-A			
267	措置 (新工法・ 新材料)	床版	<b>拡幅歩道用FRPサンドイッチ床版</b> 本技術は、既設道路橋の歩道拡幅工事や歩道添架工事の床版に適用するFRPサンドイッチ床版で、従 来は鋼床版で対応していた。本技術の活用により、床版が軽量化、高耐久化され、品質、安全性、施 工性が向上する。	■						△	○	○	○	0件			KT-220090-A			
268	措置 (新工法・ 新材料)	床版	<b>カナクリートRCプレキャスト床版</b> 本技術は高強度軽量繊維コンクリート(カナクリート)で構築した床版を使用した工法技術であり、従 来はプレキャストPC床版であった。本技術の活用により、耐久性・軽量化による品質向上、早期脱型 可による施工性、経済性の向上、工期短縮が期待できる。	■						○	○	○	○	0件			KK-220050-A			
269	措置 (新工法・ 新材料)	床版	<b>GGRW工法</b> 本技術は従来のアスファルト加熱型塗膜系防水層の間に補強材の高強度ガラスグリッドを積層した床 版補強防水の工法技術であり、従来はアスファルト加熱型塗膜系防水工法であった。本技術の活用 により防水層の長期耐久・防水性による品質の向上が期待できる。	■						△	△	○	△	0件			KK-220072-A			
270	措置 (新工法・ 新材料)	床版	<b>自走式床版搬送据付装置「アームローラー工法」</b> プレキャスト床版の取替工事・新設工事において、移動式クレーンを使用せず、想定される重量の PCa床版をトラックから取り受け、保持した状態で前後進・旋回・床版の上げ下げ、正確かつスム ーズに床版の据え付けまで一連の作業を、単独で行うことができる。	■	○ R6					○	○	-	○	0件			KK-220073-A			
271	措置 (新工法・ 新材料)	床版	<b>NSW式床版取替用スタッド溶接</b> 本技術は、スタッド溶接において、防錆処理、フェルル設置治具、磁気吹き対策を行う工法で、従 来は溶接部下地処理および一般的なフェルル設置で対応していた。本技術の活用により、作業効率 に優れた安定した溶接が可能で、経済性・品質・施工性が向上し工程短縮となる。	■						○	○	○	○	0件			KK-230070-A			
272	措置 (新工法・ 新材料)	床版	<b>連続繊維シート格子接着工法に用いる積層養生テープ</b> 本技術は複数回養生が必要な箇所に対し、一度の貼付で養生ができる積層養生テープで、従来は養生 テープを複数回貼付・カットし対応していた。本技術の活用により、貼付・カットの回数が減り、作 業者への負荷低減と経済性向上、工期短縮が期待できる。	■						○	○	-	○	0件			KK-230073-A			
273	措置 (新工法・ 新材料)	床版	<b>STEEL-C.A.P工法</b> 橋梁上部工の老朽RC床版の取替えにおいて、従来のプレキャストPC床版による床版取替技術に対 し、鋼床版を用いた本技術により、急速取替が可能で経済性の向上や環境負荷の低減、拡幅による施 工性の向上や床版死荷重の軽減による下部工の耐震性向上などが期待できる。	■						○	○	○	○	0件			KK-240002-A			
274	措置 (新工法・ 新材料)	床版	<b>人力舗装に特化した床版防水材「ハイウェイ・スラブバンド」</b> 本技術は、人力で行う小規模な橋梁舗装補修に特化したエポキシ樹脂系床版防水材である。従来はアス ファルト加熱型塗膜系防水工法で対応していた。本技術の活用により、材料の加熱・溶解および養生 が不要となるため、施工性・安全性の向上および工程の短縮が図れる。	■						△	○	-	○	0件			KK-240045-A			
275	措置 (新工法・ 新材料)	床版	<b>防水・舗装一体型防水システム「HQペーレン工法」</b> 本技術は、防水・舗装一体型防水工法で、従来はアスファルト加熱型塗膜系床版防水工法で対応して いた。本技術の活用により耐久性の高い改質アスファルトの効果で床版防水層とレベリング層が一体 となり、防水性・耐久性が高まり、品質の向上が図れる。	■						△	○	○	-	0件			KK-240046-A			
276	措置 (新工法・ 新材料)	排水装置	<b>銚心管(いしんかん)「橋梁用排水パイプ」</b> 本技術は、床版上の滞留水排除を行う同径成形の橋梁用排水パイプである。従来技術では異径成形の 削孔による施工が行われていた。本技術の活用により現場施工が効率化されるため、施工性の向上、 工期短縮などが期待できる。	■						○	○	○	○	1件	1件		TH-170015-A			
277	措置 (新工法・ 新材料)	排水装置	<b>橋梁用 天板プレート一体型ステンレス排水装置(TS-PL PIPE)</b> 本技術は橋梁排水工に使用するプレート一体のステンレス製排水装置です。薄型軽量による施工性、 安全性の向上、既設管全体を覆うプレートにより施工性、止水性、景観の向上が図れます。	■						○	○	○	○	9件	9件		CB-190003-A			
278	措置 (新工法・ 新材料)	排水装置	<b>高機能床版排水パイプ</b> 高機能床版排水パイプ(クトロドレイン)は道路橋における床版の水抜きを主とする製品で、従来はシン ブルな構造の水抜きパイプ(スラブドレインなど)が用いられてきた。本技術の活用によりコスト削減 が図られ、品質の向上が期待できる。	■	○ R6					○	-	○	-	5件	1件	4件	HK-200001-VE			
279	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>車両限界 検尺棒</b> 本技術は建設用重機運搬車両等の接触事故防止について、法定高さ制限3.8M以内を計測するポールで ある。従来は単管パイプを高さ3.8Mのゲートに組立て、その下を通過することで高さを確認してい た。本技術の活用によりゲート設置費用削減と作業員の安全性が向上する。	■						○	○	○	○	23件		23件	KT-140130-VE			
280	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>ゴム支承のオゾン劣化防止コーティング(K-PRO工法)</b> 本技術は、ゴム支承において大気中のオゾンによる劣化で表面にき裂が生じた場合に、その進展を防 止し耐オゾン性を向上させる技術であり、従来はシリコンコーティングなどで対応していた。本技術 の活用により、従来より耐候性、変形追随性などの向上が図れる。	■						○	○	○	-	5件		5件	KT-140105-VR			
281	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>耐疲労性向上溶接材料および施工法</b> 本技術は溶接手の疲労特性を向上させる技術で、従来はグラインダによる止端処理で対応してい た。本技術の活用により構造物の耐久性が向上するとともに、処理速度向上による施工性および経済 性の改善が図れる。	■						○ R2	○	○	○	○	9件	9件	KT-160009-VR			
282	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>バイオハクリX-WB</b> 本技術は、鋼構造物の塗膜を除去する、水系塗膜剥離剤で、従来はアルコール系塗膜剥離剤で対応し ていた。本技術の活用により、既存塗膜が剥離しやすくなるため、工程の短縮が期待できる。	■						○	○	-	-	71件	5件	66件	KT-160043-VE			
283	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>K-PREX工法</b> K-PREX工法は、既設コンクリート構造物の内部に固定着した緊張材を用いて、既設部材および増 設部材をプレストレスにより補強する技術である。	■						○	○	-	○	0件			CG-200015-A			
284	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>耐候性ナイロン12製結束バンド</b> 本技術は耐候性ナイロン12製結束バンドで、従来は耐候性ナイロン66製結束バンドで対応していた。 本技術の活用により、耐塩害性による屋外環境での安全性が向上し、また初期投資はかかるもののラ ンニングコスト削減によりトータルコストでの経済性の向上も図られる。	■						△	-	○	○	67件	25件	42件	KT-150105-VE			
285	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>耐疲労性向上溶接材料および施工法</b> 本技術は溶接手の疲労特性を向上させる技術で、従来はグラインダによる止端処理で対応してい た。本技術の活用により構造物の耐久性が向上するとともに、処理速度向上による施工性および経済 性の改善が図れる。	■						○ R2	○	○	○	○	9件	9件	KT-160009-VR			
286	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>USアンカー</b> 本技術は、鉄筋径と同じネジ径を確保したアンカー工法で、従来は、鉄筋径より小さいネジ径のアン カー工法で対応していた。本技術の活用により同一鉄筋径でのアンカーで耐力が上がることに伴う品 質の向上、経済性の向上、再資源化処理量(コア酸)の減少が図れる。	■						○	○	-	○	8件	2件	6件	KT-160059-VE			
287	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>ポリマーセメントモルタル(ゴムラテックスモルタル)型充填材</b> 本技術は、鋼材とコンクリートとの複合構造物や鋼材とコンクリートの境界部等について、コンク リート打設時に充填不良が懸念される狭隙な箇所への事前充填を行い、施工による充填不良を防止で きるポリマーセメントモルタル型の充填材です。	■						○ R3	○	○	○	-	8件	1件	7件	CB-160010-VE		
288	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>ハイブリッドエポキシ樹脂</b> 塩害劣化環境下のコンクリート構造物に対する、機能性吸着材を添加した塩分吸着型エポキシ樹脂 コンクリート補修材。鉄筋やコンクリート中の塩化物イオンを吸着固定化することにより塩害による鉄 筋腐食の抑制と、コンクリートの補修を同時に行うことができる技術。	■						△	-	○	-	9件	9件		HK-170005-VR			
289	措置 (新工法・ 新材料)	その他 (耐震補強)	<b>CFパネル工法</b> 本技術は、炭素繊維シートを2枚のフレキシブルボードで挟み込んだ複合パネルを用いた耐震補強工 法で、従来は鋼板巻立で工法で対応していた。本技術の活用により、材料が軽量であるため人力施 工が可能となるので、施工性の向上、工程の短縮および経済性の向上が図れる。	■						○	○	-	○	0件			KT-170060-A			
290	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>環境負荷物質を低減した高耐食溶融亜鉛めっき</b> 本技術は、環境負荷物質(六価クロム、鉛、カドミウム等)を低減した高耐食の溶融亜鉛めっきであり 、従来においては、環境負荷物質(六価クロム、鉛、カドミウム等)を多く含有していた。本技術 の活用により、耐久性の向上が期待でき、環境負荷を低減する事ができる。	■						-	-	○	-	31件	31件		HR-170002-VE			
291	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>導体ゴムセンサを用いた電気抵抗式水分計による水分管理システム</b> 本技術はコンクリート面に表面粗さがある場合でも安定した水分測定が行える技術である。従来は高 周波水分計で測定を行っていたが、表面粗さのある面での測定が安定しない傾向にあった。本技術の 活用により、粗さのある面であっても安定した値での測定が可能となる。	■						△	-	○	-	13件	2件	11件	CB-170009-VE			
292	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>ペリカンリムーバー</b> 本技術は、旧塗膜に塗膜剥離剤を塗布することで、塗膜を軟化・膨潤させて湿潤状態で容易に除去で きる塗膜除去工法であり、従来はプラスト工(表地調整程度2種)であった。本技術の活用により、経済 性の向上、工程短縮、周辺環境への影響抑制が期待できる。	■						○ R5	○	○	-	-	20件	3件	17件	KK-170037-VE		
293	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>環境に優しい高耐久性結束バンド「ガルバロック」</b> 植物由来の耐候性ナイロン11製結束バンドで環境に優しく、耐候性、耐塩害性、耐熱性に優れる。従 来は耐候性ナイロン66製結束バンドを使用していた。本技術の活用により、屋外長期的耐久性が期待 でき、初期コストは掛かるが、ライフサイクルコストの削減が可能となる。	■						△	-	○	-	128件	20件	108件	KK-170053-VE			
294	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>ネオハクリ工法</b> 本技術は鋼構造物用中性型水系塗膜剥離剤(環境対応)を使用して鋼構造物の塗膜を湿潤状態で除去す る技術である。旧塗膜に含まれる有害物質を湿潤状態で除去でき、粉じん・騒音の低減による作業 環境改善、さらに産業廃棄物量を低減する事で経済性の向上が期待できる。	■						○ R5	○	-	△	○	31件	7件	24件	CG-170006-VE		
295	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>疲労強度改善型フェルル</b> 橋梁の主桁部に配置する頭付スタッド溶接部の疲労強度を向上させる技術で、従来は、標準タイプ のフェルルで対応していた。本技術の活用により、スタッド溶接部の疲労寿命を約1.5～1.8倍向上 できるため、橋梁の長寿命化が期待できる。	■						○	○	○	○	1件	1件		QS-170001-A			

No.	分類項目	小分類項目	技術名称	新技術開発システム (NETIS)										性能カタログ※1					
				掲載 ※NETISサイ トに移動しま す	NETIS (有用な新技術) ※2				従来技術との比較※3 (※技術開発者の申請情報)				NETISの 活用効果調査件数※4			NETIS登録番号	掲載 ※性能カタ ログページ に移動します	技術の 性能確認 シート	性能カタログ番号
					推奨技術	準推 奨技術	評価 促進技術	活用 促進技術	経済性	工程	品質	施工性	全体	中国地整	他地整				
296	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>高強度スタッドボルト</b> 鋼床版のUリブ補強に用いる下面から施工可能な摩擦接合用スタッドボルトで、従来は、交通規制と 舗装撤去が必要な摩擦接合用高強度ボルトによる鋼板補強で対応していた。本技術の活用により、 供用しながらの補強工事が可能となるため、経済性や施工性が向上する。	■						○	-	-	○	0件			QS-170046-A		
297	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>スタッド上向き溶接システム</b> 鋼構造物の上向き補修・補強に用いる表面側から施工するスタッドの溶接システムで、従来は、垂直 目視確認を伴うスタッド上向き溶接で対応していた。本技術の活用により、溶接精度が向上し、再溶 接のリスクを軽減できるため、施工性が向上する。	■						○	○	○	○	0件			QS-170047-A		
298	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>Rアンカー</b> 本技術は仮設材設置に用いる抜取り可能な接着系と施工アンカー技術で、従来はエポキシ樹脂を用 いた施工および母材のはつり、ボルト切断による撤去にて対応していた。本技術の活用により、撤去 時に母材のはつりやボルトの切断が不要となり、施工性・経済性の向上が図れる。	■						○	○	-	○	2件		2件	KT-180026-A		
299	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>PC-Rev工法</b> 本技術は、PCグラウト充てん不足部を補修する工法で、従来はグラウト再注入工法で対応していた。 本技術の活用により、僅か15.5mm径の削孔だけで補修処理を完了でき、精度の良い空洞量推定をす ることで適切な注入量管理ができ、高い施工品質の確保が期待できる。	■						△	○	○	○	3件		3件	KT-180080-A		
300	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>アルカリ反応型高圧注入剤(アウトサーシール剤)</b> 本技術は、コンクリート構造物の漏水をアルカリ反応により成長した結晶構造体で止水する注入工法 であり、従来はエポキシ樹脂の注入で対応していた。本技術の活用により、止水能力の向上、粘性度 調整によりひび割れ幅の対応範囲が広がり施工性が向上が期待できる。	■						△	-	○	○	0件			KT-180135-A		
301	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>ウォーターカッター</b> 本技術は橋梁補修工事に橋梁桁端部に設置する水切り材である。従来技術は一般的に発泡ポリスチ レン製面木を接着剤にて橋梁桁端部に取り付けていたが、本技術ではEPDMゴム発泡体を素材とし 使用することにより、従来技術より耐候性の面で優位性がある。	■						△	-	○	-	47件	7件	40件	KK-180012-VE		
302	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>ST式桁接着工法「U-ウエッジフレーム工法」</b> 本技術は橋梁耐震補強における変位拘束装置とT桁を連結するために桁を貫通しないブラケットを 使用した工法であり、従来は桁定着ブラケット(アンカーボルト式)を使用していた。本技術の活用によ り、経済性、施工性の向上、工期短縮が期待できる。	■						○	○	-	○	6件		6件	KK-180015-VE		
303	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>ST式T型ストッパー</b> 本技術は地震時に水平方向(橋軸方向および橋軸直角方向)と上揚力に対して緩衝機能を有している桁 の落下防止装置であり、従来はアンカーバー方式による変位拘束構造で対応していた。本技術の活用 により経済性、品質の向上、工期短縮が期待できる。	■						○	○	○	-	6件		6件	KK-180018-VE		
304	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>桁端部側方型充填工法</b> 本技術は、PC・RC橋の桁端部遊間部において桁の側面より防水材を用いて排水構造を構築する技術 であり、従来は、弾性シール材充填工法で対応していた。本技術の活用により、工期短縮、施工性の 向上、周辺環境への影響抑制が期待できる。	■						△	○	-	○	1件		1件	KK-180028-A		
305	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>循環式ショットピーニング工法</b> 本技術は循環式プラスト工法の資機材を用いて、既設橋梁溶接部にショットピーニングを施す技術で あり、照射時間や圧力管理による施工管理や蛍光塗料とカバーレジェクターを用いることによる出 来形管理方法を確立し、既設橋梁での対応を可能とした技術である。	■						○	○	○	○	7件		7件	CB-180024-A		
306	措置 (新工法・ 新材料)	その他 (鋼板接着工)	<b>ワンドスティック溶接機</b> 本技術はキャバスタ(蓄電ユニット)を搭載したアイルストップ機能付溶接機で、従来はスロウダウン 機能付溶接機で対応。キャバスタ蓄電力により「願時」に溶接作業が可能となり待機時間0、加えて 発電機出力の補助等による「燃費・騒音低減」「CO2削減」も実現した。	■						○	-	-	○	0件			SK-180005-A		
307	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>摩擦接合用高力ボルト継手接合面のすべり係数を確保する錆促進剤 「ヒットロックK」</b> 本技術は、摩擦接合面に赤錆を発生させる促進剤を塗布してすべり係数を確保する技術で、従来はプ ラスト工法で対応していた。本技術の活用により研磨材の回収不要かつ騒音も小さくなり、作業も効 率化されるので、周辺環境への影響抑制、工期短縮、経済性の向上が図れる。	■						○	○	○	○	0件			KT-190017-A		
308	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>J-UPプレス</b> 本技術は、橋梁の上部工と下部工の間に設置することによって、耐震性能を向上させる技術で、従来 は橋脚、橋台RC巻立て補強等に対応していた。本技術の活用により、土工事やRC巻立て補強工事が 必要なくなるので、経済性の向上が図れる。	■						○	○	○	○	0件			KT-190048-A		
309	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>高性能小口径杭工法「ハイスベックマイクロバイル工法」</b> 本技術は、ボーリングマシンを用いて二重管削孔し、鋼管+グラウト充填で定着させる小口径合成鋼 管杭工法で、従来は、マイクロバイル工法で対応していた。本技術の活用により、汎用的な施工機械 と長尺鋼管の使用によって継手の削減が可能となるため、経済性の向上が図れる。	■						○	○	○	○	0件			KT-190080-A		
310	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>鋼構造物表面処理用レーザークリーニング工法 (JPL工法)</b> 本技術は、橋梁等の素地調整において、高パワーパルスレーザー照射及び集塵システムの採用により 塗膜・錆を除去する技術である。従来はオープンプラストによる。本技術のレーザー照射のプラズマ 効果等により、作業環境の向上、周辺環境への影響の低減などが図れる。	■						△	△	○	○	1件		1件	KT-200093-A		
311	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>ダイス・ロッド式摩擦ダンパー(DRF-DP)による橋梁耐震技術</b> 本技術(DRF-DP)は橋梁についてレベル1地震動には支保部の固定部材として働き桁ズレを防止、レベ ル2地震動には橋脚が受ける桁からの水平力を減じる技術である。従来は支保付属の治具(サイドブ ロック)で対応していた。本技術によりレベル2地震動時の耐震性が確保できる。	■				○ R6	△	△	-	-	○	0件			KT-200137-A		
312	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>FRPマンホール D・FRP-PLEXUS</b> 本技術は、鋼製橋脚・桁向けの止水構造付きFRP製マンホール蓋と接着材を用いた接合方法で、従来 はゴムパッキンを取付けた鋼製マンホール蓋をボルトで締結する接合方法で対応していた。本技術の 活用により、内部への漏水を物理的に遮断し、橋脚・桁の耐久性向上が図れる。	■					△	○	○	○	0件				KT-200143-A		
313	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>鋼構造物の疲労き裂部における補修・補強(KMリフト)工法</b> 本技術は鋼構造物の疲労き裂に対してKMリフトを用いた補強工法(圧接接合用高力ボルトによる接合) であり、従来は当てボルト工法にて対応していた。本工法の活用により、疲労き裂部の応力集中を 低減させ、かつ施工効率を大幅に向上させることに期待できる。	■						○	○	-	○	0件			SK-200002-A		
314	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>仮締切防水シート工法</b> 本技術は仮締切工で枠の止水方法を防水シートに変えた技術であり、従来は潜水工の水中施工による 仮締切用ライナープレート組立工法であった。技術活用で水中施工軽減とライナープレート再使用に より経済性、安全性、施工性、リサイクル性の向上と、工期短縮が期待できる。	■						○	○	-	○	0件			KK-200037-A		
315	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>吸着式上向きスタッド溶接工法</b> 本技術は、スタッド溶接に関する技術である。吸盤吸着により溶接ガンと固定し上向きスタッド溶接 を行う技術で、従来は、作業員の手持ち保持と垂直目視確認で対応していた。本技術の活用により、 安全性および施工性、品質が向上する。	■						○	○	-	○	0件			QS-200059-A		
316	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>ICR処理工法</b> 本技術は、鋼構造物に発生した疲労き裂の補修工法であり、当該箇所の補修には従来では当て板工法 等による補修で対応されてきたが、ICR処理工法を用いることにより従来工法と比較して安全かつ経 済的に鋼構造物の疲労き裂の補修を行うことができる。	■						○	○	-	○	0件			CB-210010-A		
317	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>TVI工法</b> 本技術は小口径注入の先行設置を可能にしたグラウト再注入工法であり、従来はグラウト再注入工 法で対応していた。本技術の活用により経済性、施工性の向上、工期短縮、CO2の削減による地球環 境への影響抑制が期待できる。	■						○	○	-	○	0件			KK-210038-A		
318	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>養生用防炎クロス</b> 本技術は、鋼構造物等の塗装に用いる耐薬品性防炎シートで、従来は塩ビ製防炎シートの上にポリエ チレン製保護フィルムを使用していた。本技術の活用により、保護フィルムを重ねなくても剥離剤に よる溶融や溶剤の浸透が発生しない軽量化防炎性能を有したクロスである。	■		○ R6		○ R5		○	○	-	○	16件	1件	15件	CG-210003-VE		
319	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>養生の匠</b> 本技術は、塗装時に足場材等への塗料付着から保護する養生シートである。シートの固定を従来のマ スキングテープによる方法から板バネ方式としたことで、シートの着脱作業が容易になり施工性に優 れる。また、繰り返し使用が可能なため廃棄物の減量、省資源化が図られる。	■						○	○	○	○	0件			CG-210022-A		
320	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>狭所用鋼材孔明け機 (極低床ボーラー)</b> 本技術は、橋梁上部工に関する技術である。狭所用鋼材孔明け機で、高さ100mm以上の隙間での 孔明けを可能にした。従来は、ガス(酸素・アセチレン)切断で対応していた。本技術の活用によ り、省力化と、工程の短縮に伴う経済性の向上が期待できる。	■						○	○	○	○	4件	1件	3件	QS-210063-A		
321	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>懸濁型超微粒子複合シリカグラウト「ハイブリッドシリカ・シリーズ」</b> 本技術は、地盤改良に用いる高強度薬液注入材で、従来は、高圧噴射二重工法のセメント系固化工 法で対応していた。本技術の活用により、従来技術で見られた建設汚泥処理が減少するため経済性向 上・周辺環境への影響が抑制される。	■						○	△	-	○	0件			KT-220015-A		
322	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>フォームサポート工法</b> 本技術は、橋脚等の間に橋桁を架設した構造の橋梁をEDO-EPSブロックと発泡ウレタン等で補強する 中詰め工法で、従来は気泡混合軽量盛土工法で対応していた。本技術の活用により製造プラントや重 機が不要で、狭隙現場でも人力で施工が可能となるため、施工性の向上が図れる。	■						○	○	-	○	0件			KT-220061-A		
323	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>シリコン樹脂を用いた「バッファークコート」工法</b> 本技術は、鋼橋やコンクリート構造物の防食および表面保護を行うシリコン樹脂のコーティング工 法で、従来は、塗替塗装(C-5系(重防食塗装))で対応していた。本技術の活用により、3層の塗膜層 でも40年以上の長期耐久性が確保できるため、品質および経済性の向上が図れる。	■						○	○	○	△	0件			KT-220094-A		
324	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>エコクリーンクラックパスター</b> 本技術は、溶接止端部のき裂をニードルで打撃することで閉口させ、き裂の進展を停止あるいは遅延 させることが可能となる補修技術であり、従来はグラインダーによりき裂全体を切削除去していた。 本技術の活用により、作業性・経済性が向上し、安定した品質確保が可能となる。	■						○	○	○	○	1件		1件	CB-220007-A		
325	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>合いマーク用マーカー 消えま線</b> 本技術は、屋外で5年相当後も消えない合いマーク用マーカーであり、従来技術は1年後の点検時に 書 いた合いマークが消え、ボルトのゆるみ確認には工具による打音検査や合いマークの再施工を必要と した。本技術により、それら確認が必要とされないため経済性が向上する。	■						○	○	○	○	187件	34件	153件	CB-220008-VE		

No.	分類項目	小分類項目	技術名称	新技術開発システム (NETIS)										性能カタログ※1						
				掲載 ※NETISサイ トに移動しま す	NETIS (有用な新技術) ※2				従来技術との比較※3 (※技術開発者の申請情報)				NETISの 活用効果調査件数※4		NETIS登録番号	掲載 ※性能カタ ログペー ジに移動します	技術の 性能確認 シート	性能カタログ番号		
					推奨技術	準推 奨技術	評価 促進技術	活用 促進技術	経済性	工程	品質	施工性	全体	中国地整					他地整	
326	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>エコクリーンショット</b> 本技術は、プラスチック品質の向上を図ったステンレス製の多面体の研削材で、従来は鋭角多角形のスチールグリットを使用していた。本技術の活用により鋼材表面に研削材の破片が剥がることが無くなり品質の向上が図れる。	■						○	-	○	○	0件			CB-220013-A			
327	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>TPD工法</b> 本技術は加圧・減圧注入方式による無機グラウト材を使用した接着系あと施工アンカー工法であり、従来は接着系あと施工アンカーであった。本技術の活用により鋼製ブラケット製作期間の短縮による施工性の向上、グラウト材のロス率低下による地球環境への影響抑制が期待できる。	■						○	-	-	○	1件		1件	KK-220026-A			
328	措置 (新工法・ 新材料)	その他 (車止め)	<b>車両突入阻止バリアード「HERCULES ヘラクレス」(小型タイプ)</b> 通行車両が誤って作業域に突入した時に車両を最短で強制的に停止できる技術であり、従来はクッションドラムで対応していた。本技術の活用により現場作業員の安全と安心を確保し、運搬時の軽量化と設置の容易化が図れる。	■						○	○	○	○	1件		1件	HK-230005-A			
329	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>アンカーボルトの設置を補助する製品「アンカー留太郎」</b> 本技術は、アンカーボルトの設置を補助する設置補助具である。従来はアンカー設置補助用の「くさび」や「支保工」を用いていたが、本技術の活用で、アンカーボルトの挿入と同時に仮止め作業が完了するため、挿入後の作業を省略でき、施工工程を少なくすることができる。	■						○	○	-	○	2件	1件	1件	TH-230002-A			
330	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>MWTスタッド工法</b> 対象部材を設置する際、従来はアーク溶接工法を用いていたが、MWTスタッド工法はヒューム、スパッタの発生が少なく、ガンのトリガーを引くだけで一定の品質を確保できる技術である。また、ガンの改良によって、狭い空間で施工が可能である。	■						○	-	-	○	0件			KK-230016-A			
331	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>非接触の塗膜除去工法「クリーンレーザー工法」</b> 本技術は、高出力のレーザー光線とバキューム吸引により、鋼構造物の塗膜、錆および付着塩分を除去する工法で、従来は、1種ケレン(プラスト法)で対応していた。本技術の活用により、騒音の低減等のため経済性、工程、品質、安全性、施工性および作業環境の改善が図れる。	■						△	△	○	○	1件		1件	KK-230042-A			
332	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>スタッド溶接結果記録装置</b> 本技術は、スタッド溶接品質管理において、モニター良否判定、外観撮影、仕上り高さ測定を行うシステム技術で、従来は、目視検査及びメジャーによる高さ測定で対応していた。本技術の活用により、リアルタイム品質管理や作業員への負担軽減が可能となり、施工性が向上する。	■						△	○	-	○	0件			KK-230053-A			
333	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>吊りチェーン養生材「エコクリーンチェーンガード」</b> 本技術は、吊りチェーン取付部の隙間から研削材などが落下するのを防止する技術であり、従来は、隙間に発泡性樹脂を充填することで対応していた。本技術の活用により省人化が可能になるため、施工性の向上、経済性の向上および工程の短縮が期待される。	■						○	○	-	○	0件			KK-240057-A			
334	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>TS目地ガードN使用の橋梁伸縮目地補修</b> 本工法は、TS目地ガードN使用の橋梁伸縮目地補修工法で、従来は、埋設型伸縮装置(舗装厚内型)で対応していたが本工法の活用により、連続施工が可能となり、工程の短縮が図れトータルな経済性の向上に繋がる。	■						○	○	-	○	0件			KK-240059-A			
335	措置 (新工法・ 新材料)	その他	<b>密閉集塵式パルスレーザー表面処理工法</b> 本技術は、密閉集塵ボックスによって遮蔽された区画にパルスレーザー処理を施すとともに発生した粉塵等を吸引回収する技術であり、従来は1種ケレン(プラスト工法)で対応していた。本技術の活用により、粉塵対策による作業環境の向上が図られる。	■						△	△	-	○	0件			KK-240061-A			